

和仏法律学校講義録

松岡, 義正 / 若槻, 禮次郎 / 赤司, 鷹一郎 / 梅, 謙次郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2

(号 / Number)

号外の12

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1901-08-10

和佛法律學校

講義錄

第貳部

號外之拾貳

商法修正要領(自一七至七四) 法學博士梅謙次郎

商法商行為(自八三至九〇) 法學士赤司廉一郎

破產法完(六九) 法學士松岡義正
表紙及目次 八頁

現行租稅法論(完)(自三四七至三六六) 法學士若槻禮次郎
表紙及目次 四頁



法學志林

第貳拾壹號

七月二十六日發行

本號ニ限リ定價金貳拾錢郵稅金壹錢五厘

○婦人ノ地位

○國際の優勝法ノ傾向、法學博士中村進午○特別宥恕向ニ非様ノ列舉ニ付テ、法學博士岡田朝太郎○再ヒ手形ノ振出地ニ關スル新判例ニ就テ、法學博士梅謙次郎

○手形ノ迷兒

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

○手形ノ迷兒、手形損藏

發行所 東京市麹町區富士見町六丁目 司法省指定 和佛法律學校 電話番町一七四

前法修正要領 編輯

090
1900
2-2-12

サルヘカラス此ノ如キハ實ニ破産ノ法制ニ關スル主義ノ何レノ精神ニモ合ハ
サルモノニシテ畢竟不完全ナル法律タルコトヲ免レス而シテ我破産法ハ頗ル
嚴酷ナル規定ヲ有シ歐洲ニ於テ學者間ニ最モ批難多キ佛蘭西法ニ則レルカ如
シ蓋シ破産法ノ規定甚シク嚴酷ナルトキハ各人ニ於テモ強メテ破産ヲ免レン
トシ債權者ニ於テモ容易ニ之ヲ請求セサルカ故ニ多クハ其宣告ノ時期ヲ失シ
破産ノ效能ヲシテ却テ濶カラシムルノ弊アリ現ニ佛蘭西等ニ於テハ此弊ヲ認
メタルカ故ニ千八百八十九年リキダシヨンジユヂニールニ裁判上ノ清算ナル
制度ヲ設ケテ破産法ノ缺點ヲ補フニ至レリ隨テ此ノ如キ破産法ハ之ヲ商人ニ
限ルト雖モ尙ホ嚴酷ニ過クルモノナリト謂ハサルヘカラス況マ之ヲ商人以外
ニ及ホシ商ヲ爲ス者全體ニ適用スルニ至リテハ實ニ殘酷モ亦極マレリ右ノ如
キ理由アルヲ以テ新商法ニ於テハ之ヲ特別法トスルノ主義ヲ取リ之ト同時ニ
其施行法第百三十八條ヲ以テ商ヲ爲スニ當リ支拂ヲ停止スル者云云トアリシ
舊商法第九百七十八條ノ規定ヲ改メテ商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ云云ト
爲レ之ヲ商人ノミニ限ルコトトセリ故ニ新商法施行法ノ施行後ハ現行ノ破産

法ハ商人ノミニ特別ナル法律ト爲レリト雖モ是レ亦暫時ハコトニシテ本年奉
ノ議會ニハ破産法ト名タル特別法ノ提出ヲ見ルヘク其主義ハ之ヲ商人非商人
ニ通シテ適用スルノ主義ナルコト勿論ナリ

第五 舊商法ニ於ケル取引所ニ關スル規定保險會社ノ取締ニ關スル規定船舶
ノ國籍ニ關スル規定等ハ皆之ヲ特別法ニ讓レリ此他尙ホ細末ノ點ヲ舉クレハ
際限ナシト雖モ此三箇ノモノハ就中著シキモノナリトス抑モ此等ノ事項ハ總
テ行政上ノ事項ニシテ取引所ニ付テハ現ニ取引所法ナルモノアリ若シ現行ノ
取引所法カ不完全ナルニ於テハ之ヲ改正スレハ可ナリ強テ商法中ニ規定スル
必要ナシ元來商法ハ民法ト同シク私權關係ヲ規定スルモノナリ故ニ此ノ如キ
事項ヲ規定スルハ固ヨリ其當ヲ得ヌ次ニ保險會社ノ取締ニ關スル規定ノ如キ
ハ本來行政上ノ事項ナリ但其目的ハ保險契約ヲ結ヒシ者又ハ保險事業ニ因リ
テ利益ヲ受クヘキ者ヲ保護スル爲メニ設ケタル規定ナルカ故ニ之ヲ保險契約
ニ關スル規定ト看做シ商法中ニ規定スルコトヲ得サルニアラスト雖モ新商法
ニ於テハ之ヲ特別法ニ讓ルヲ便トセリ此特別法ハ明治三十三年法律第六十九

號ヲ以テ發布セラレタル保險業法是ナリ終ニ船舶ノ國籍ニ關スル規定ハ是レ
亦行政上ノ事項ニシテ單ニ私權關係ニ屬スルモノニ非サルカ故ニ等シク特別
法ニ讓ルヘキモノトシテ現ニ船舶法ナルモノヲ商法ト共ニ編纂公布セラレ商
法ト同シク明治三十二年六月十六日ヨリ施行セラレタリ

第六 舊商法ノ編別ハ三編ニ分テ第一編ヲ商ノ通則トシ商事契約ノ規定並ニ
商事會社ノ規定ヲ總テ包含セシメ加フルニ手形ノ規定ヲモ編入セリ而シテ第
二編ヲ海商トシ第三編ヲ破産トセリ殊ニ第一編ニ入ルニ先テ總則トシテ特ニ
二箇條ノ規定ヲ置ケリ蓋シ編別ノ如キハ強テ重キヲ置クノ必要アリト雖モ體
裁上甚シク奇妙ナル編別ヲ爲スカ如キハ必ス之ヲ避ケサルヘカラス而シテ予
ハ舊商法ノ編別ヲ以テ必スシモ理由ナキモノナリトセス先ツ總則ヲ首ニ置ク
ハ普通ノ例ニシテ次ニ商ノ通則ヲ置キ以テ普通ノ商法ヲ包含セシメ次ニ海商
ヲ置キ主トシテ海上商業ニ關スル事項ヲ規定シ而シテ最後ニ破産ノ規定ヲ置
キシハ一應理由ノ存スルコトナリト雖モ破産法ハ元ト民事訴訟法ト同性質ノ
モノニシテ舊商法ニ於テハ前段ニ述ヘタル如キ理由ニ因リ之ヲ商法中ニ編入

セリト雖モ新商法ニ於テハ之ヲ特別法ニ讓リシテ以テ姑ク措テ論セス而シテ他ノ二編ニ付テ之ヲ見ルニ海商ト其他ノ部分全體トハ各一編ヲ成セリ海商ノ商業上重要ノモノタルコトハ言フヲ疑タス殊ニ我邦ニ於テハ一層之ニ重キヲ置カサルヘカラスト雖モ之ヲ以テ他ノ部分全體ト對立セシムヘキニアラス況ヤ海商編ノ中ニ規定セル事項ト雖モ所謂商ノ通則ヲ適用スヘキ事項敢テ鈔シトセス例ヘハ運送ノ如キ保險ノ如キ其他一一枚舉スルニ遑アラズ隨テ此ノ如ク大ナル一編ト小ナル一編トニ二分スル如キハ體裁上太ク贊成シ難キモノアルヲ以テ今ハ第一編ヲ總則トシ舊商法ノ首ニ掲ケタル事項ト類似シタルモノ即チ主トシテ商人ニ關スル一般ノ規定ヲ掲ケ而シテ第二編ヲ會社トシ會社ニ關スル事項ノ總ヲ規定シ次ニ第三編ヲ商行爲トシ舊商法ノ首ニ商事トシテ規則セル事項並ニ商事契約トシテ後ニ規定セル事項ヲ包含セシメ次ニ第四編ヲ手形トシ終ニ第五編ヲ海商トセリ右手形ノ規定ハ商行爲ニ關スルモノト謂フコトヲ得ヘキモ自ラ一種ノ性質ヲ有スルカ故ニ特ニ一編ト爲セリ而シテ此編別ニ付テモ多少疑フヘキ所ナキニアラスト雖モ事ノ輕重ヨリ之ヲ見レハ稍

ヤ權衡ヲ得タルニ似タリ即チ商人ニ關スル一般ノ規定ハ之ヲ一編ト爲スノ理由アリ又會社ノ規定モ太ク重要ナル規定ニシテ殊ニ商事會社以外ノ者ニモ適用セラルヘキモノナルカ故ニ特ニ之ヲ一編トセリ次ニ商行爲ノ編ニ於テ商法ノ支配スヘキ法律行爲ヲ概テ網羅シ次ニ手形ハ右ニ述ヘタル如ク特別ノモノナルカ故ニ亦一編ト爲シ終ニ海商ハ舊商法ニ於テモ特ニ一編ヲ置キシモノニシテ是レ亦一編ト爲スノ必要アリ要スルニ此編別ハ稍ヤ體裁ヲ得タルモノナリト信ス

第二章 商法ト民法及ヒ商慣習トノ關係

商法ト民法及ヒ商慣習トノ關係ハ舊商法ニ於テモ之ヲ規定シ新商法ニ於テモ亦之カ規定ヲ置ケリ即チ舊商法第一條ニ曰ク「商事ニ於テ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス」而シテ新商法第一條ニハ左ノ如ク規定セリ

商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキト

商法修正要綱 商法ト民法及ヒ商慣習トノ關係

キハ民法ヲ適用ス

舊商法ノ規定ニ依レハ「商慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス」トアルカ故ニ商慣習ト民法トノ關係甚タ不明ナリ隨テ商事ニ關シ商法中ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習ト民法ノ規定ト何レヲ適用スヘキカ之ヲ決定スルコトヲ得ス「ロエスレル」氏ノ説明ニ依レハ商慣習ヲ先ニ適用スヘキカ如シト雖モ法文ノ上ニ於テハ必スシモ此ノ如ク斷言スルコトヲ得ス然ルニ新商法ニ於テハ此點ヲ明瞭ニシ商慣習ヲ先ニ適用シ而シテ商慣習ナキ場合ニ限り民法ヲ適用スヘキモノトセリ是レ當然ノ事ニシテ商業上ニ於テハ殊ニ慣習ヲ重シ其慣習モ亦太多シ民法施行前ニ在リテハ法律上ノ爭訟ト爲レル事項ニシテ民事ニ付テハ從來ノ慣習アルモノノ極メテ尠キヲ以テ裁判官ハ已ムヲ得ス條理ニ依リテ裁判スルノ外ナカリシト雖モ商事ニ付テハ各地ニ於テ一定ノ慣習アルモノ多キカ故ニ裁判官ニ於テ詳シク之ヲ調査スルトキハ其慣習ニ依リテ裁判スヘキ場合意外ニ多カルヘシ然ルニ強テ其慣習ニ異ナレル民法ノ規定ヲ適用スルトキハ商業上ノ便利ヲ害スルコト尠ナラザルカ故ニ商慣習アル場合ニ於テハ先ツ商慣習ニ依

ルヘキモノト定メタルナリ而シテ新商法ニ於テ特ニ商慣習法ト名ケシ由來ヲ説明スレハ甚タ冗長ニ涉ルノ虞アリト雖モ商慣習法ノ何タルコト及ヒ商慣習法ト商法トノ關係ハ稍ヤ困難ナルカ故ニ此ニ簡短ニ説明セン
抑モ慣習ナルモノニハ法律ノ效力ヲ有スヘキ慣習ト唯事實トシテ存在セル慣習トノ二種アリ而シテ事實トシテ存在セル慣習ハ民法ノ規定ニ依リテ當事者カ其慣習ニ依ラント欲スル意思アリシモノト認ムヘキトキニ限り其慣習ヲ適用スヘキモノニシテ(民法第九二條)此規定ハ民法ニ於テモ甚タ感服セザル規定ナルカ故ニ予ハ民法ノ講義ニ於テ常ニ之ヲ攻擊セリ然レトモ商法第一條ニ所謂商慣習法ナルモノト民法ニ謂フ所ノ慣習トカ果シテ同一物ナリヤ否ヤ若シ同一物ナリトセハ甚タ奇妙ナル規定ナリト謂ハサルヘカラス既ニ述ヘタル如ク商法ト民法トハ特別ノ理由アルニアラサレハ其主義ヲ異ニスヘキニアラス而シテ慣習ノ觀念ニ付テハ其可否ハ姑ク措キ民法ニ於テ之ヲ確定セルニ拘ラス商法ニ於テ之ニ正反對ノ規定ヲ設クルカ如キハ萬已ムヲ得サル理由ナカルヘカラスト雖モ未タ其理由アルコトヲ知ラス即チ慣習ノ效力ニ付テ民法ト商

法ト其規定ヲ異ニスヘキ理由ナシ隨テ舊商法ノ如ク單ニ之ヲ商慣習トシテ規定スルモ其實質ノ事ロ慣習法ナルコトハ例ヘハ獨逸ノ學者等ノ盛ニ論スル所ニシテ獨逸商法ニ於テモ同シク商慣習ト譯スヘキ文字ヲ使用セルニ拘ラス學者ハ一般ニ之ヲ商慣習法ノ意ニ解シ若シ商慣習即チ單純ナル事實上ノ慣習ナルトキハ民法ニ於ケルカ如ク當事者ニ於テ之ニ依ルノ意思アリシトキニ限リテ適用スヘキモノトセリ唯此ニ一ノ困難ナル問題ヲ生スルハ事實タル慣習ハ商法ノ規定ニ反スル場合ニ於テモ當事者ニ於テ之ニ依ルノ意思アルトキハ此慣習ヲ適用セサルヘカラス即チ商法ノ規定ノ多クハ公益規定若クハ命令規定ニアラズ寧ロ當事者ノ意思ヲ以テ變更スルコトヲ得ル規定ナルカ故ニ民法第九十二條ノ原則ヲ適用シ商法ノ規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ當事者カ其慣習ニ依ルノ意思ヲ有セシトキハ其慣習ヲ適用セサルヘカラス即チ民法第九十二條ニハ法令中公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行為ノ當事者カ之ニ依ルノ意思ヲ有セルモノト認ムヘキトキハ其慣習ニ從フテアリ而シテ商法第一條ニハ商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商

慣習法ヲ適用ストアリ此二箇條ヲ對照スルトキハ恰モ事實タル慣習ノ效力ハ慣習法ニ優ルカ如シ而シテ此點ヲ說明スルハ一般學者ノ頗ル困難トスル所ナリト雖モ予ハ寧ロ太タ容易ナリト信ス何トナレハ先ツ事實タル慣習ハ當事者カ之ニ依ラント欲スルノ意思アルニアラサレハ全ク其效力ヲ有セスト雖モ之ニ反シテ慣習法ハ當事者ニ於テ之ニ依ルノ意思ヲ有セサルトキト雖モ其效力ヲ有シ隨テ其適用ヲ免ルルコトヲ得ス此點ニ於テ商慣習法ノ事實タル商慣習ニ優レルコト明カナリ次ニ事實タル慣習ト慣習法トヲ別物ノ如ク思考スルハ甚シキ誤解ナリ抑モ慣習法トハ如何ナルモノヲ云フカ事實タル慣習ヲ當事者ヨリシテ又主權者ヨリシテ權利義務ノ淵源ト爲ルヘキモノト認メタルモノニ外ナラス換言スレハ此慣習法ハ極メテ漠然タルモノナリト雖モ現ニ角權利義務ノ淵源ト爲ルヘキモノトシテ或慣習ト爲レル事實ニ法律ノ效力ヲ付シタルニ外ナラス即チ其本質ハ一種ノ事實タルコト言フヲ缺タス是レ法例ノ規定ヲ一覽スレハ容易ニ了解スルコトヲ得ヘシ其第二條ニ曰ク「公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ヒ法令ニ規定ナキ事

項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス下即チ此規定ニ依リテ事實者
 ル慣習ト雖モ右ノ條件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ慣習法ト看做スニ在リ故ニ慣
 習法ト慣習トハ別物ニアラス隨テ商法ニ規定セル事項ニシテ之ニ異ナリタル
 慣習ノ存在セル場合ニ於テ其慣習カ慣習法ト看ラレル場合ニ於テモ其慣習法
 ハ少クトモ事實タル慣習ト同一ノ效力ヲ有スルモノニシテ當事者ニ於テ之ニ
 依ルノ意思ヲ有セシトキハ即チ其慣習法行ハレ商法ノ規定ハ行ハレサルナリ
 是故ニ事實タル慣習カ却テ慣習法ヨリ多クノ效力ヲ有スルニアラスヤトノ論
 ハ誤レリ

以上ハ商法ト商慣習法及ヒ民法トノ關係ニシテ舊商法ニ於テハ其關係甚タ不
 明ナリシカ新商法ニ於テハ之ヲ明瞭ニセリ

第三章 小商人

商商法ニ於テハ小商人ナル名稱ナシ唯其第七條ニ於テ左ニ掲クルモノハ之ヲ
 商取引ト看做サスト規定シ一之ヲ省ク二戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣

リ又ハ勞役ヲ供スルコト但常設ノ營業所ヨリ出タルモノハ此限ニ在ラス三專
 ラ勞力賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲スコト四他人ノ爲メ
 ニ働作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ揭ケサル
 トキニ限ル下アリ然レトモ是レ甚タ了解ニ若シム所ナリ蓋シ此等ノ取引ヲ商
 取引ト看做サストスルトキハ之ニ商法ヲ適用スルコトヲ得タルヲ以テ自ラ民
 法ノ規定ヲ適用セサルヘカラス其結果トシテ重大ナル商取引ハ簡便ナル商法
 ノ規定ニ依リテ支配セララルルニ拘ラス此等輕微ナル取引ハ却テ鄭重ナル民法
 ノ規定ニ依リテ支配セラレサルヘカラス是レ實ニ理由ナキコトトス故ニ新商
 法ハ其第八條ニ於テ左ノ如ク規定セリ

戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記商號及
 ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セス

蓋シ舊商法ニ於テ前陳ノ如キ些細ナル取引ヲ商取引ト看做サストセシ所以ハ
 其理由書ニ依ルモ又其模範タル獨逸商法ノ規定ヲ見ルモ畢竟商業登記商號商
 業帳簿等稍ヤ面倒ナル手續ヲ此等ノ取引ニ適用セサルノ精神ニ外ナラス即チ

道路ニ於テ物ヲ販賣スル者ニ商號ノ必要ナク亦登記ノ必要モナシ例ハハ拍賣ニ對シ商號又ハ登記ノ規定ヲ適用スルノ必要更ニナキカ如シ又商業帳簿ノ如キモ同一ニシテ五厘乃至一錢ノ餉菓子ヲ賣リテ糊口スル者ニ對シ一其收支ノ金額ヲ帳簿ニ記載セシムルカ如キハ到底實際ニ行ハルヘキニアラス故ニ舊商法第七條ニ於テハ之ニ商法ヲ適用セスト規定シタル所以ナリト雖モ其規定汎博ニ失スル爲メ前述ノ如ク却テ不便ナル民法ヲ適用セサルヲ得サルカ如キ不都合ナル結果ヲ生シタルナリ新商法ハ此ニ見ル所アリ商號等三種ノ規定ニ限リ之ヲ右ノ商人ニ適用セサルコトトセリ而シテ舊商法第七條ニ列舉セルモノハ何レモ細小ノ商人ノミナリト雖モ中ニハ理論上商取引ニ入ラサルモノアリ此等ノモノハ固ヨリ之ヲ除カサルヘカラス然ルニ之ヲ除カサルノミナラス他ノ一方ニ於テハ例ヘハ戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ販賣セストモ細小ナル駄菓子店ノ如キハ宜シク第七條ノ除外ノ範圍ニ入ルヘキモノナルニ拘ラス同條ノ規定ニ依レハ此ノ如キモノモ亦商號商業登記商業帳簿等ノ規定ノ適用ヲ受ケサルヘカラス然レトモ右駄菓子店ノ如キモノハ道路ニ於テ菓子ヲ賣ル

者ト毫モ異ナル所ナシ又燒着屋ノ如キモ然リ此等ノ者ニ商業帳簿ヲ備ヘシムルカ如キハ到底行ハルヘキコトニアラス故ニ今回ハ此等ノモノヲ總テ除クノ必要アリトシ其範圍ヲ定メンカ爲メニ種種調査ヲ爲シタリシモ商法修正案ヲ議會ニ提出スルヤテニハ其調査ヲ遂クルコト能ハザリシヲ以テ單ニ第八條ニ小商人トシテ規定シ商法施行法ヲ以テ小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトトセリ而シテ其勅令ハ明治三十二年六月十五日第二百七十一號ヲ以テ之ヲ發布セリ(商行爲ヲ爲スラ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス)以上ノ如キ理由ニ因リ小商人ノ範圍及ヒ之ニ適用スル規定ニ關シ舊商法ト新商法トハ大ニ差異ヲ生スルニ至リシナリ

第四章 商業登記

舊商法ノ商業登記ニ關スル規定ニ依レハ(商號後見人未成年者婚姻契約代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ前項ノ營業所又ハ住所ヲ他ノ地ニ

移シタルトキハ既ニ登記シタル事實カ尙ホ存スル場合ニ限リ移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受ク可シ舊商法第一八條下アリ此ノ如ク單ニ營業所又ハ住所ノ裁判所トノミ規定スレトモ豪商殊ニ會社等ニ於テハ大抵支店ヲ有セリ例ヘハ東京ニ本店ヲ有シ而シテ大坂ニ支店ヲ有シ又ハ大坂ニ本店ヲ有シ而シテ東京ニ支店ヲ有スルカ如ク本店ノ外別ニ支店ヲ有スル者甚タ多シ然ルニ右第十八條ノ規定ハ本店ノミニ於テ登記ヲ爲スヘキカ將タ支店ニ於テモ登記ヲ爲スヘキカ又若シ雙方共ニ登記スヘキモノトセハ其登記スヘキ事項ハ同一ナリヤ否ヤ甚タ不明ナリ隨テ第十八條ノ解釋ハ人ニ因リテ同シカラス而シテ登記ナルモノハ廣ク他人ヲシテ其事項ヲ知ラシムルヲ以テ目的トス故ニ縱令本店ノミニ於テ登記ヲ爲スモ支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ササルトキハ一般ニ其事項ヲ知了セシムルコトヲ得ス隨テ登記ノ目的ヲ十分ニ達シタルモノト謂フヘカラス仍テ新商法ニ於テハ其第十條ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

例ヘハ後ニ説明スル如ク支配人等ニ付テハ本店ノ支配人ト支店ノ支配人トハ其人ヲ異ニスルコトアリ而シテ此場合ニ於テハ本店ノ支配人ヲ支店ニ於テ登記スルノ必要ナキト同時ニ支店ノ支配人ヲ本店ニ於テ登記スルノ必要ナシト雖モ此ノ如キ特別ノ規定ナキ限リハ本店ニ於テ登記スヘキ事項ハ支店ノ所在地ニ於テモ悉ク之ヲ登記スヘキモノトセリ是レ一ノ改良ナリトス尙ホ登記ニ關シ一ノ改良シタル點ハ登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノノ效力ニ付キ單ニ登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ己レノ過失ニ非ナルコトヲ證シ得ルニ非サレハ之ヲ知ラサルヲ以テ己レヲ保護スルコトヲ得ス然レトモ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其效用ヲ致サシム但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム舊商法第二二條トノミ規定スルニ過キス是レ實ニ不明ナル規定ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ登記シタル事項ハ更ニ公告セサルヘカラス舊商法第一九條而シテ登記シタル事項ハ公告シタル事項ト通常符合スヘキモノナリト雖モ時トシテハ相一致セ

ナ他ニ變更登記消滅登記ニ關シテハ一モ規定スル所ナシ是レ全ク翻譯ノ誤ニシテ「ロ」エスレル氏ノ草案ニハ恰モ第二十一條ノ第二項ニ該當スル場所ニ於テ「以上ノ規定ハ變更登記又ハ消滅登記ニモ適用スル旨」ヲ記シ而シテ特ニ之ヲ別條ト爲スコトヲ忘却シタル爲メ翻譯ヲ爲ス者ハ其儘右第二十一條第二項ニ之ヲ置キ「前項ニ同シ」ト誤譯シタルニ外ナラス抑モ登記ハ何ノ爲メニ之ヲ爲スカ廣ク第三者ヲシテ其事項ヲ知ラシムルカ爲メニアラスヤ然ルニ其事項ニシテ既ニ變更シ又ハ消滅セルニ拘ラス其變更消滅ヲ登記セザルトキハ却テ人ヲ欺クノ具ト爲リ了ランノミ故ニ苟モ其事項ヲ登記セシムル以上ハ其事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項ノ消滅シタルトキハ等シク之ヲ登記セシムルニアラザレハ登記ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス是ヲ以テ新商法ハ第十五條ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法中ニ於テモ時トシテ變更消滅ノ登記ヲ規定スルモノナキニアラスト雖

モ是レ極メテ稀有ニシテ多クノ場合ニ付テ何等ノ規定ナク現ニ株式會社等ニ關シ變更登記ハ原則トシテハ之ヲ爲サスシテ可ナルモノトセリ新商法ニ於テハ此第十五條ノ通則ノミヲ以テ未タ足レリトセス各事項ニ付テ特別ノ規定ヲ設タルモノ多シ然レトモ此ニハ一一説明セス

第五章 商號

商號ニ關スル規定ニ付テモ新商法ハ舊商法ト稍ヤ異ナレリ

第一 舊商法ニ依レハ商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ本則トシ唯其營業者ノ氏又ハ氏名ヲ用フルモ妨ナシトセルカ故ニ其結果トシテ屋號ニアラザレハ氏又ハ氏名タラサルヘカラス而シテ其屋號ノ定義ニ付テモ多少ノ疑アリシカ今同ハ全然此ノ如キ制限ヲ廢シ如何ナル名稱ト雖モ之ヲ商號ト爲スコトヲ許シ唯其著シキモノヲ例示シテ氏氏名其他ノ名稱トセリ故ニ屋號タルト堂號タルト又符牒タルト問ハス總テ之ヲ商號トスルニ於テ毫モ妨ナシ例ハ八九一、金十ノ如キ名稱ヲ用フルモ可ナリ然リト雖モ本来名稱トシテ視ルコ

トヲ得ナルモノハ之ヲ商號ト爲スコトヲ得サルカ故ニ例ヘハ○刊ト云フカ如キ微號ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得ス又山十ト稱スル場合ニ於テモ山ノ字ト十ノ字トヲ用フルハ可ナリト雖モ之ヲ變シテ令トスルニ至リテハ既ニ名稱ノ性質ヲ失ヒ隨テ商號タルコトヲ得ヌ要スルニ名稱タルト否トニ因リテ之ヲ區別スルニ在リ是レノ改良ナリトス

商號ニ用フル名稱ニ付テハ管ニ一箇人ノ場合ノミナラス會社ノ商號ニ付テモ亦之ヲ自由ニセリ舊商法ニ於テハ合名會社ニ付テハ「社名ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用キ之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ」舊商法第七五條ト規定シ合資會社ニ付テハ「社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又社名ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ」舊商法第一三九條而シテ株式會社ニ付テハ「社名ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ヌ又社名ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ」舊商法第一七三條トアリシカ故ニ太シキ制限ヲ受ケタリト雖モ今ハ全ク此ノ如キ制限ヲ廢セリ抑モ會社ノ種類ニ因リテ社員ノ氏ヲ用フルト否トヲ區別スル舊商法ノ如キ規定ハ西洋ニ於

テハ古來ノ慣習上甚タ必要ナリ今其沿革ヲ釋スルモ合名會社ハ其初メ法人ニアラズシテ一ノ組合ナリシ隨テ契約其他ノ書面ニ署名スルニ方リテモ各自ニ之ヲ爲シシカ合名會社ノ制度漸次擴張セラレテ法人類似ノモノト爲リ尙ホ進テ遂ニ純然タル法人ト認メラルルニ及ヒ西洋ノ慣習上他人ノ氏名ヲ代書スルハ日本ノ偽印ニ相當スル所爲ノ如ク思惟スルニ拘ラス此合名會社ニ付テハ法人若クハ法人類似ノモノト看做スル結果例ヘハ二人ノ合名會社ナルトキハ其兩人ノ名ヲ接合シテ商號ト爲シ而シテ其商號ハ甲之ヲ署スルモ乙之ヲ署スルモ慣習上之ヲ有效ト認ムルニ至レリ然ルニ此慣習ハ單ニ社員ノ二人ノミニ止マルトキハ敢テ妨ナシト雖モ三人四人乃至數人ノ多キニ及フトキハ甚タ不便ナルカ故ニ遂ニ便宜上何某及ヒ會社ト稱スルニ至レリ即チ社員中最モ信用アル者ノ名ヲ表シ餘ハ及ヒ會社ナル文字ヲ以テ之ニ代フルニ至リシナリ西洋ニ於テハ實ニ此ノ如キ沿革アルカ故ニ合名會社ハ即チ名ヲ合セタル會社ニシテ名ヲ合セタル會社ハ合名會社タルコト一目瞭然タルナリ唯英國ノ制度ハ少シク異ナル所アリ寧ロ英國ニ於テハ純然タル合名會社ナシト雖モ伊太利ニ於テ

モ佛蘭西ニ於テモ乃至獨逸ニ於テモ合名會社ハ少クトモ一人ノ氏名ヲ表示シ而シテ之ニ「及ヒ會社」文字ヲ添フルヲ例トシ若シ單ニ二人ニ止マルトキハ必ス「某及ヒ某」ト稱スルニ一定セリ而シテ此慣習ハ數百年ノ慣行ニ因リテ定マリタルモノニシテ若シ他ノ種類ノ會社ニ類似ノ名稱ヲ用フルトキハ直チニ誤解ヲ招クカ故ニ「某及ヒ會社」トアルカ又ハ「某及ヒ某」ト稱スルハ合名會社ニ限リ合資會社若クハ株式會社ニ此ノ如キ文字ヲ用フルコトヲ許ササルナリ尙ホ煩ヲ避ケテ之ヲ省キシカ合資會社ト雖モ無限責任社員ハ社名ニ其氏ヲ用ヒテ可ナリ而シテ其名ヲ表セル者ハ當然無限責任社員タルノ結果ヲ生ス此點ハ株式合資會社ニ付テモ同一ナリ然レトモ日本ニ於テハ固ヨリ此ノ如キ慣習アルコトナク舊商法施行前ニ於テハ各自隨意ノ名ヲ附シ商法ノ規定ニ依レハ合名會社タルヘキモノト雖モ例ヘハ日就社ノ如キ名ヲ附シ而シテ合資會社ナルモノハ舊商法施行ノ後ニ生シタルモノナリト雖モ其以前ニ於ケル合資會社ニ類似シタル會社ノ如キモ大抵人ノ氏名ヲ用ヒス此ノ如キ有様ニシテ歐洲ノ如キ沿革更ニナシ然ルニ舊商法施行後俄ニ社員ノ氏ヲ用フルコトトモシハ甚タ謂レナ

キコトナリトス且ツ單ニ一人ノ氏ヲ用フルノミナラハ大合名會社又ハ濫濶合名會社ト云フカ如ク敢テ奇怪ナラスト雖モ若シ二人以上ノ名ヲ用ヒ濫濶大合名會社ナトト稱スルニ至リテハ日本人ノ感覺上稍ヤ奇異ノ思ヲ爲スナリ尤モ會社ニ因リテ二人若クハ三人ニシテ同額ノ資本ヲ出シ且ツ其世間ニ對スル信用モ畧ホ同一ナル場合ニ於テハ或ハ抽籤ヲ以テ其氏ヲ表示スル者ヲ定ムレハ可ナルカ如キモ若シ單ニ其一人ノ名ヲ表示スルトキハ各社員ノ感覺ニ於テ不快ナルコトナシトセス加之伊太利ノ昔ニ於ケル如ク合名會社ノ性質未ダ一定セス唯慣習上漠然ト定マリシ時代ニ於テハ此ノ如ク社員ノ名ヲ表示スルコト或ハ必要ナリシト雖モ今日ニ於テハ合名會社ノ如何ナルモノナルカハ商法ニ於テ判然タル詳細ノ規定アリ又社員ノ何人タルコトモ登記ニ依リテ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘク又會社ニ就キテ之ヲ聽クモ定款等ニ依リテ何人ノ社員タルカハ一目瞭然タルカ故ニ必スシモ商號ニ社員ノ名ヲ掲グル必要ナシ故ニ今ハ此ノ如キ束縛ヲ全ク解除セリ隨テ合資會社株式會社等ニ在リテモ之ニ人ノ氏名ヲ冠スルコトヲ妨ケサルナリ恰モ舊商法會社ノ部分ノ施行セラレタ

ル當時問題ト爲リシ事項ハ例ヘハ吉佐移民會社ナルモノアリ此會社ハ合名會社ナルモ假ニ之ヲ株式會社トセハ如何此吉佐ナル名ノ出所ヲ聞クニ吉川佐久間ト云ヘル二人ノ氏ヲ合併省略シタルモノニシテ此會社ハ吉川佐久間ノ設立ニ係ルモノナルカ故ニ吉佐移民會社ト稱セシナリト云フ若シ株式會社ニシテ右ノ二人ノ發起ニ係ルヲ以テ吉佐移民株式會社ト稱セント欲スル者アリトセシニ此吉佐二人ノ氏ヲ略シタルモノナリトセハ舊商法ニ依レハ株式會社ニハ此ノ如キ名ヲ用フルコトヲ得ス然レトモ時トシテハ此ノ如キ名ヲ用フルヲ便トスルコトアリ要スルニ西洋ノ如ク數百年來ノ慣習アレハ格別日本ニ於テハ此ノ如キ慣習ナキヲ以テ強テ西洋ニ摸擬セントスルトキハ日本人ノ爲メニハ甚タ不便ナルカ故ニ單ニ合名會社合資會社株式會社株式合資會社等ノ文字ヲ附スルコトヲ必要トシ而シテ此文字アルトキハ他ニ如何ナル文字アルモ毫モ差支ナキコトニ定メタリ而シテ規定ノ所在ニ付テモ舊商法ニハ各種ノ會社ノ部分ニ在リシカ今ハ之ヲ商號ノ場所ニ一括セリ

第二 舊商法ニ於テ甚タ奇怪ナル規定トシテ批難多カリシ其第二十三條ニ於

テハ各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表示スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲ストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要ストアリシカ此條文ヲ一讀スルトキハ商號ヲ有スルハ恰モ命令の規定ナルカ如キ感アルノミナラス初メ草案ニ於テハ全ク其趣意ヲ以テ之ヲ置キシコト更ニ疑ヲ容レス此ノ如キハ外國ニ於テモ其例ナキニアラサルヲ以テ姑ク之ヲ恕スヘシトスルモ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テハ必ス各別ノ商號ヲ有セサルヘカラスト云フニ至リテハ實ニ實際ノ事情ニ適セサルノミナラス實ニ甚シキ干渉且ツ東縛ナリト謂ハサルヘカラスト例ヘハ同一人カ資本ヲ分チテ銀行業ト吳服業トヲ營ムカ如キ場合ニ於テハ其銀行業ト吳服業トハ同一ノ商號ヲ有スルコトヲ得スシテ必ス別箇ノ商號ヲ有セサルヘカラスト雖モ此ノ如キハ實際上甚タ不便ナリ何トナレハ信用ヲ有スル商人ニ在リテハ例ヘハ其銀行業ノ信用ヲ移シテ吳服業ニ利用スルコト常ナルニ拘ラス同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ストセハ全ク此利益ヲ受クルコト能ハサレハナリ今日ニ於テハ既ニ其組織ヲ變更セリト雖モ彼ノ三井家ノ如キ

ハ兩替店トシテ信用ヲ有スルト同時ニ吳服店トシテモ亦信用ヲ有スルカ故ニ一方ノ信用ハ他ノ營業ノ信用ヲ生シ他ノ營業ノ信用モ亦一方ノ營業ノ信用ヲ増スカ如キ結果ト爲リ三井家ニ取リテ甚タ利益ナリシト雖モ若シ同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ストセハ全ク此利益ヲ享クルコトヲ得ザリシナラン尤モ此規定ニ依ルモ三井銀行ト三井吳服店トハ其銀行ト云ヒ吳服店ト云フ點ニ於テ同一ノ商號ニアラスト云フコトヲ得ルカ故ニ解釋上敢テ不便ナキカ如シト雖モ單ニ三井ト云フトキハ同一ノ商號ト爲ルカ故ニ之ヲ用フルコトヲ許サス是レ甚タ束縛ニ過キタル規定ナリトシテ今ハ全ク之ヲ削除セリ

第三 商號ヲ利用シテ詐欺ヲ行フカ如キハ勿論許スヘカラサルコトナルカ故ニ例ヘハ會社ニアラストシテ會社ノ如キ商號ヲ用フルコトヲ許サス此點ニ付テハ舊商法中何等ノ規定スル所ナク單ニ商法施行條例第二條ニ於テ「會社ニ非スシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス」トアリシカ所謂「會社」ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス」ト云フハ「會社」アル文字ヲ用フルコトヲ禁シタルモノニシテ會社ノ意味ヲ有スル文字ヲ用フルコトヲ禁シタルニアラスト

テ其理由トスル所ハ若シ會社ナル文字ヲ用フルコトヲ許ストキハ商法ニ規定セル各種ノ會社ト他ノ會社ニアラサルモノトヲ區別スルコト甚タ困難ニシテ世人ハ往往之ニ瞞著セラルルコトアルヲ以テ之ヲ禁スト云フニ在リ然レトモ若シ此ノ如キ趣意ヲ以テ會社ノ文字ヲ用フルコトヲ禁スルモノトセハ彼ノ商會又ハ社ト云フカ如キ文字ヲ用フルコトヲモ禁セサルヘカラスト何トナレハ現ニ何何商會又ハ何何社ノ名ヲ以テ商法上合名會社又ハ合資會社トシテ登記セルモノ極メテ多シ例ヘハ村井兄弟商會又ハ日就社ト云フカ如シ隨テ此等ノ商會又ハ社ノ文字ヲ用フルモ等シク他人ヲ欺ク材料タルヲ得ヘシ現ニ我我ノ如キハ何何社又ハ何何商會ト稱スルモノハ勿論二人以上ノ人ヨリ成レル會社ナリト信スルニ拘ラス其實際ノ内情ヲ聞クニ及ヒテ全ク一人ノ營業タルヲ知ルコトアリ是レ殆ト詐欺ト擇フ所ナキモノナリ是ヲ以テ新商法ノ摸範ト爲リシ法典殊ニ此部分ノ摸範ト爲リシ獨逸商法等ニ於テハ明ニ會社ヲ意味スヘキ文字ヲ加フルコトヲ得ストアリ是レ固ヨリ然ラサルヲ得ザル所ナルヲ以テ新商法ニ於テハ

會社ニ非スジテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス
 會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ(第一八條一項)
 規定シタリ隨テ商會又ハ商社ト云フカ如キ文字モ亦之ヲ用フルコトヲ得
 サルナリ或ハ曰ク商法ニ規定セル會社ニ付テハ必ス會社ナル文字ヲ用ヒサル
 ヘカラス隨テ會社ニアラサルモノニシテ縱令商會又ハ社ノ如キ文字ヲ用フル
 モ苟モ會社ナル文字ヲ用ヒサル以上ハ決シテ會社ト混同スルノ虞ナシ例ヘハ
 會社ニ在リテハ合名會社日就社合名會社村井兄弟商會ト稱スルカ故ニ會社ト
 云ヘル文字ヲ用ヒサル以上ハ敢テ妨ケンキニアラスヤト是レ一ヲ知リテ二ヲ
 知ラサルノ論ナリ若シ之ヲシモ尙ホ可ナリトセハ會社ナル文字ヲ用フルモ亦
 可ナリト謂ハサルヘカラス即チ新商法ニ依レハ必ス其會社ノ種類ヲ商號中ニ
 示スコトヲ要スルカ故ニ其會社ノ種類ヲ示サスシテ單ニ會社ト稱スル場合ナ
 シ隨テ單ニ會社ト稱スルモ敢テ妨ケンクスト謂ハサルヘカラス而シテ舊商法ニ於
 テハ合資會社株式會社ノ二者ハ其性質ヲ示スコトヲ必要トシ合名會社ハ單ニ
 會社ト稱スルヲ以テ足レリトセシモ其施行條例ニ於テ從來ノ會社即チ當時既

設會社ト稱セシ會社ニ付テハ其商號ハ必ス合名會社合資會社又ハ株式會社ナ
 ル文字ヲ用ヒサルヘカラストシ加之同條例第二條ニ於テハ從來會社ニ非スシ
 テ會社ト稱セシモノハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ改ムルコトヲ要スト
 アリシヲ以テ見ルモ會社ナル文字ヲ用フルハ誤解ノ虞アリトシテ之ヲ禁シタ
 ルニ外ナラス而シテ此點ヨリ云ヘハ商會ト云ヒ又ハ單ニ社ト云フモ同一ニシ
 テ固ヨリ之ヲ禁スヘキ理由アリ尤モ新商法ニ於テハ商法施行前ヨリ使用スル
 商號ニハ之ヲ適用セサルヲ以テ依然其商號ヲ使用スルコトヲ得ヘシ商法施行
 法第一二條

第四 商號登記ノ性質ニ關シテモ舊商法ニ於テハ商號ヲ登記スルトキハ其商
 號ノ專用權ヲ取得スルモノトセリ條文ハ甚タ惡文ナレトモ現ニ角其意ハ明瞭
 ナリ即チ其第二十六條ニ於テ商號ハ登記ニ因リ同一營業ニ付キ一地域内ニ於
 テ其專有ノ權利ヲ取得シ他人之ヲ用ニルコトヲ得ストアリ此規定ハ頗ル批難
 多カリヤ規定ニシテ恰モ此規定ノ存スルカ爲メニ商號ノ規定全部ヲ廢スヘシ
 トマテ主張シタル論者アリシ現ニ東京商業會議所ニ於テモ廢止ノ決議ヲ爲シ

又商法施行延期ノ時ニモ貴族院議員村田保氏ノ如キハ盛ニ廢止說ヲ主張セ
 是ヲ以テ法典調査會ニ於テハ此點ニ關シ特ニ各地ノ商業會議所ニ諮問シ實業
 家ノ意見ヲ確カメシニ商號ニ關スル規定全廢ノ意見ヲ具申シタルモノアリシ
 多多數ノ商業會議所ハ商號ノ規定ヲ必要トセシカ故ニ遂ニ之ヲ存スルコトト
 爲レリ然レトモ舊商法第二十六條ノ如キ規定ヲ存スヘキヤ否ヤニ付テハ頗ル
 議論アリ數回討議ノ末之ヲ削除スルコトニ一決シ之ニ代ヘテ新商法第十九條
 ノ規定ヲ置クニ至レリ即チ

他人カ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ之ヲ登記ス
 ルコトヲ得ス

尙モ商號登記ノ效力トシテハ第二十第一項ニ於テ
 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ
 使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得但損害賠償
 ノ請求ヲ妨ケス
 ト規定レタリ此等ノ規定ト舊商法ノ規定トヲ比較スルニ新商法ニ於テハ舊商

法ノ如ク商號ノ登記ニ因リテ必スシモ商號ノ專用權ヲ得セシムルモノニアラ
 スト雖モ登記シタル商號ハ法律上何某ノ商號タルコトヲ認メラレ而シテ同一
 營業ニ關シ同一商號數箇ヲ認ムルハ法律カ商號ヲ保護スル所以ニアラサルヲ
 以テ法律上ニ於テハ同一營業ニ關シ同一商號數箇ノ登記ヲ許サス然リト雖モ
 之カ爲メニ商號ノ專用權ヲ得セシムルニアラサルヲ以テ他人カ同一商號ヲ使
 用スルハ敢テ法律ノ禁スル所ニ非ス唯不正ノ競争ノ目的ニ出ツルモノハ其登
 記ヲ爲シタル者ニ於テ之ヲ差止ムルコトヲ得ヘシ例ヘハ下谷池ノ端ニ守田治
 兵衛ナル人アリ久シク寶丹ト稱スル賣藥ヲ鬻キテ巨利ヲ占メツツアリ然ルニ
 其隣家ニ至リ同シク守田治兵衛ノ名ヲ以テ寶丹營業ヲ爲ス者アリトセンニ是
 レ明ニ不正ノ競争ナリ何トナレハ從來守田治兵衛ト稱シ寶丹營業ニ信用ヲ博
 セル者ノ名ヲ假リテ世人ヲ欺キ以テ奇利ヲ罔セントスル者ナレハナリ隨テ此
 ノ如キハ之ヲ差止ムルコトヲ得サルヘカラス而シテ不正ノ競争ナルヤ否ヤハ
 人ノ意思ニ關スル問題ナルカ故ニ之カ證據ヲ舉ケンコト多クノ場合ニ於テ困
 難ナリ是ヲ以テ法律ハ一般ノ推定ヲ下シ前掲第二十條第二項ヲ以テ

同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定スルハ其ノ如ク推定セラルル然ラハ反對ノ規定セリ即チ反對ノ證據ナキ限リハ常ニ此ノ如ク推定セラルル然ラハ反對ノ證據トハ如何ナルモノヲ云フカ例ヘハ其商號ノ登記アルコトヲ全ク知ラザリシコトヲ證明シタルトキハ不正ノ競争ニアラス又例ヘハ等シク守田治兵衛ト云ヘル名ヲ用フル場合ニ於テモ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ他ニ同氏名ノ者アルヲ奇貨トシ故ラニ其名ヲ假リテ池ノ端ニ賣藥營業ヲ開クカ如キ場合ハ格別若シ然ラスシテ守田ト稱スル家ニ子ノ生レタルヲ偶然治兵衛ト名ケ其子ノ成長スルニ及ヒ全ク一家ノ都合ニ因リ賣藥營業ヲ爲サシムルカ如キ場合ニ於テハ必スシモ不正ノ競争ナリト云フコトヲ得ス而シテ此規定カ果シテ穩當ナルヤ否ヤハ今俄ニ斷言シ難シト雖モ法典調査會ニ於テモ不正ノ競争ノ目的ニ出テタルコトヲ證明シ得ル者ハ同市町村内ニ於テ同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ルモノトシ唯一般ノ場合ニ於テハ常ニ不正ノ競争ナリト推定スルヲ以テ今日ノ時勢ニ適スルモノナリトシ遂ニ此ノ如キ規定ヲ爲スニ至レリ

第五 商號カ法律上ノ效力ヲ有スル地域ニ付テハ舊商法ニハ何等ノ規定ナク單ニ商法施行條例第一條第一項ニ於テ「商法第二十六條……ニ定メタル」地域トハ各市町村ノ一區域ヲ謂ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ謂フト規定セリ然ルニ新商法ニ於テハ前掲第十九條ニ於テ「同市町村内」トセリ故ニ大體ノ原則ハ同一ナリト雖モ商法ノ規定ノミヲ見ルトキハ一切例外ヲ認メサルニ因リ市町村制ヲ施行セサル地方ニ付テハ其適用上不便アリ仍テ施行法ヲ以テ之ヲ補ヒ尙ホ幾分力之ヲ變更スルノ規定ヲ設ケタリ而シテ此等ノ事項ヲ施行法中ニ規定スルハ稍ヤ妥當ヲ缺クカ如キモ便宜ヲ爲メ之ヲ施行法ニ規定セリ現ニ予ノ如キハ之ヲ商法中ニ規定スル意見ナリシモ些細ノ事項ナルヲ以テ商法中ニ規定スルヲ好マストノ理由ヲ以テ施行法ニ讓ルコトト爲レリ即チ施行法第十四條ニ於テ「……」

商法第十九條第二項第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

ト規定セリ此終ノ點ハ舊商法發布ノ際大ニ議論アリシ點ニシテ東京ノ如ク廣大ナル都會ノ地ニ於テ同一ノ商號ハ一人ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ストスルハ甚タ酷ナリ例ヘハ本郷ト芝トニ於テ同一營業ニ付キ同一ノ商號ヲ用アルモ多クノ場合ニ於テ毫モ妨クル所ナシ然ルニ東京全市ニ於テ同一商號ハ一人ノ外之ヲ認メス若シ之ヲ用フルトキハ其差止ヲ受ケ甚シキニ至リテハ損害ノ賠償ヲ請求セラルルコトアリトスルハ寧ロ實際ニ適セストノ議論盛ニシテ予ノ如キモ之ヲ賛成セシカ令其說ニ從ヒ東京京都大阪ノ三市ニ限リテ特別ヲ設ケタリ其單ニ三市ニ限リタルノ點ニ付テハ多少議論アルヘシト雖モ今日ニ於テハ先ツ三市ヲ以テ特別ノ地位ニ置クヘキモノト認メ其各區ヲ以テ一地域トセリ即チ東京市ハ十五區ニシテ京都市ハ二區大坂市ハ四區ナリ而シテ此等ノ各區ハ人口ハ勿論土地ノ廣袤ニ於テモ概シテ他ノ一市町村ニ相當スヘシト信ス

第六 商號ノ讓渡ニ關シ舊商法ニ於テハ商號ノミヲ單獨ニ讓渡スコトヲ禁シ「營業ト共ニスルニ非サレハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス」トセリ(舊商法第二八條第一項)然ルニ新商法ニ於テハ商號ノミヲ讓渡スコトヲ許スノ趣意ヲ以テ之カ規

定ヲ設ケタリ即チ表面ヨリ之ヲ規定セスト雖モ暗ニ其意ヲ示セリ第二十一條ニ曰ク「商號ノ讓渡ハ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス」而シテ其次ノ箇條即チ第二十二條ニ於テ「商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テアルヲ以テ商號ノミヲ讓渡ス場合アルコトヲ豫想セルヤ明カナリ此點ハ頗ル批難アル點ニシテ單ニ商號ノミヲ讓渡スハ一種ノ詐欺ナリト主張スル論者アリ然レトモ是レ甚タ奇怪ナル議論ニシテ若シ商號ノミヲ讓渡ヲ以テ詐欺ナリトセハ營業ト共ニ商號ヲ讓渡ス場合ニ於テモ等シク詐欺ナリト謂ハサルヘカラス抑モ營業ノ讓渡トハ如何ナルコトヲ云フカ是レ頗ル困難ナル問題ニシテ學者ノ見解モ各大ニ異ナレリ現ニ「ロエスレル氏」ノ説明ノ如キハ予ハ全ク之ヲ了解スルコトヲ得サルナリ然レトモ予ノ信スル所ニ依レハ營業ノ讓渡トハ顧客ニ對シテ從來ノ店ト取引セシト同シク讓受人ノ店ト取引セシムルヲ云フ此事タルヤ直接ノ方法ニ依ルコト雖シト雖モ間接ノ方法ニ依ルコトヲ得ヘシ所謂間接ノ方法トハ營業ノ讓渡人カ其近傍ニ於テ再ヒ同一ノ營業ヲ開始セサ

ルニ在リ即チ其營業ヲ開始セサル一事ハ顧客ヲシテ讓受人ノ店ト取引セシムルノ結果ヲ生ス是レ畢竟營業ノ讓渡ナリト信ス而シテ其店舖ト爲レル不動產ヲ讓渡シ債權ヲ讓渡シ債務ヲ引受ケシメ帳簿ヲ讓渡シカ如キハ皆附隨ノ事項ニシテ此等ノ物ヲ讓渡サスシテ單ニ營業ノ讓渡ノミヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ本郷ニ藤村ト稱スル有名ナル菓子屋アリ此菓子屋カ閉店シテ他ノ營業ヲ始メ而シテ其近傍ニ於テ他人カ藤村ノ名ヲ以テ菓子營業ヲ爲スコトヲ許セザルトモシテ是レ商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタルモノナリ即チ店ト爲レル不動產ヲモ讓渡サス帳簿ヲモ讓渡サス又債權ヲモ讓渡サス隨テ營業ノ讓受人ハ債務ヲ引受クルコトナシト雖モ其結果トシテ從前ノ藤村ハ本郷ニ於テ菓子屋ヲ營ムコトヲ得ス是レ即チ營業ノ讓渡ナリ而シテ商業ノ實際ニ通セザル道徳家ノ如キハ或ハ之ヲ以テ詐欺ナリト云ハシ蓋シ其從來藤村ト稱セシ者ハ一定ノ經驗ニ因リ美味ナル菓子ヲ製造スル伎倆ヲ有セシカ故ニ藤村ト稱スル店ニ信用アリシナリ然ルニ全ク別異ノ人之ニ代ハリ殊ニ其人ハ從來菓子營業ヲ爲サザリシヤモ知ルヘカラス此ノ如キ者ハ毫モ經驗ヲ有セザルヲ以テ如何ナル菓子ヲ製

造スルカ測リ難シ而シテ其店ニ至リテ菓子ヲ購フ者ノ多數ハ依然從來ノ藤村ナリト信シ粗製ナル菓子ヲ高價ニ購フヤモ知ルヘカラサルカ故ニ迂濶ナル道徳家ハ之ヲ詐欺ナリト云ハシ然レトモ商業上ヨリ之ヲ見レハ毫モ詐欺ニアラス若シ之ヲシモ詐欺ナリト云ハハ例ヘハ藤村ノ主人死亡シ其相續人其營業ヲ繼續スル場合ニ於テモ其相續人ハ前代ノ主人ノ如ク經驗ヲ有セス勉勵モセス又粗惡ナル材料ヲ用アルコトナシトモ而シテ其前主人ノ死亡ヲ知レル者ハ極メテ稀ニシテ多クハ從前ノ如ク佳良ノ菓子ヲ製造スル者ナリト信シテ其菓子ヲ購ヒ家ニ歸リテ之ヲ味フニ及ヒ始メテ其從前ノ物ニアラサルヲ知ル此ノ如キ場合ニ於テモ等シク詐欺ナリト謂ハサルヘカラス故ニ他人ノ商號ト營業トヲ讓受ケテ其營業ヲ繼續スルモ商業上ニ於テハ之ヲ以テ詐欺ナリト云フコトヲ得ス是ヲ以テ方今ニ於テハ何レノ國ノ法律ニモ之ヲ許シ又如何ナル學者ト雖モ之ヲ認ムルニ於テ異論ナシ而シテ商號ノミヲ讓渡ス場合モ全ク之ト異ナルコトナシ然ルニ營業ノ讓渡ヲ有效トスルニ拘ラス何故ニ商號ノミノ讓渡ヲ認メサル者アルカ商號ノミヲ讓渡ストハ例ヘハ右ノ例ニ於テ從前ノ藤村ハ

依然トシテ菓子營業ヲ繼續セルモ其商號ヲ改メテ藤村ト稱セス而シテ其商號
 ヲ他ノ菓子營業者ニ讓渡シ其讓受人ハ爾後藤村ト稱スル場合ノ如ク而シテ此
 場合ハ前ノ場合ニ比シテ弊害少カシス何トナレハ此場合ニ於テハ從前ノ藤
 村ハ依然トシテ其營業ヲ繼續セルカ故ニ世人カ他ノ藤村ト稱スル店ヲ從前ノ
 藤村ナリト信スルコト尠シト雖モ若シ其藤村カ菓子營業ヲ廢シ同一ノ店ニ於
 テ他ノ者カ藤村ノ名ヲ以テ其營業ヲ繼續スル場合ニ於テハ概テ之ニ欺カルル
 コトヲ免レサレハナリ故ニ商號ノミヲ讓渡スルコトヲ許スハ固ヨリ當然ノコ
 トニシテ之ヲ禁スル理由尠モナシト信ス隨テ新商法ニ於テハ之ヲ禁セサルナ
 リ

第七 營業ノ讓渡ニ關シ舊商法ノ規定スル所ヲ見ルニ營業ト商號トヲ併セテ
 讓渡ストキハ其商號ヲ續用スルト之ヲ變更スルトヲ問ハス取引ノ仕殘債務得
 意先及ヒ商業帳簿モ共ニ讓渡スモノト看做ス但特約アルトキハ此限ニ在ラス
 (舊商法第二八條第二項)トアリ新商法ニ於テハ此事ニ關シ尠モ規定スル所ナシ
 而シテ舊商法ニ所謂取引ノ仕殘トハ如何ナルモノヲ云フカ文字ノ上ニ於テハ

其意ヲ解スルニ苦シムモノアリト雖モ予ハ之ヲ債權ト解セリ又得意先ノ讓渡
 トハ先列述ヘタル「營業ノ讓渡」ニラント信ス即チ從來ノ營業者カ同一ノ場所ニ
 於テ同一ノ營業ヲ爲ササルコトヲ約スル場合ヲ指シテ得意先ノ讓渡ト稱スル
 カ如シ次ニ「商業帳簿ノ讓渡」ハ日本ニ於テモ屢見ル所ナリ然レトモ此ノ如キ法
 律上ノ推定ヲ設クル必要更ニナシ何トナレハ日本ニ於テハ營業ノ讓渡ハ未タ
 西洋ノ如ク頻繁ナラス隨テ一般ノ慣習モ亦西洋ノ如ク一定セルモノナシ隨テ
 此ノ如キ法律上ノ推定ヲ設クルトキハ或ハ營業ニ因リ或ハ地方ニ因リ種種異
 ナレル慣習ノ存スル爲メ若クハ全ク慣習ノ存セサル爲メ當事者ヲシテ意外ノ
 迷惑ヲ感セシムルコトナシトセス故ニ今ハ此ノ如キ法律上ノ推定ヲ設ケス當
 事者ハ特約ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルコトトセリ

向ホ營業ノ讓渡ニ關シ舊商法ト新商法トノ異ナル所ハ舊商法第二十九條ニ於
 テハ「營業ト商號トヲ併セテ讓渡ス者更ニ其營業ヲ爲ササル責務ヲ負擔シタル
 トキハ其實務ノ履行ハ爾後十個年間其一地域内ニ限ル」トアリ此規定ト第二十
 八條ノ規定トヲ併セテ解釋スルトキハ甚ダ了解ニ苦シマサルヲ得ス而シテ理

由書ノ説明モ甚タ不明ナリ然レトモ予ハ之ヲ解シテ第二十九條ハ特約アル場合ヲ想像セシモノトシ其特約トハ同一營業ヲ爲スコトヲ得タル特約ナリト解セリ而シテ第二十八條ハ此ノ如キ特約ナキ場合ニシテ此場合ニ讓渡人カ再ヒ同一ノ營業ヲ開始スルコトヲ得サル年限及ヒ地域ハ全ク之ヲ事實問題トスルノ外ナシ之ニ反シ第二十九條ノ場合ニ於テハ年數ハ十箇年地域ハ一地域内ト定マレリ新商法ハ第二十二條第一項ニ於テ左ノ如ク規定セリ

商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ先ツ此點ノミニ付テ言ヘハ特ニ同一營業ヲ爲ササルコトヲ約スルノ必要ナク單ニ營業ヲ讓渡セハ少タトモ右ノ效力ヲ生スヘシ是レ即テ舊商法ト異ナル所ニシテ尙ホ舊商法ニ於テハ其年數ヲ十年トスレトモ新商法ニ於テハ之ヲ二十年トセリ蓋シ其期間ヲ十年トスルハ稍ヤ短キニ失シ讓渡ノ效ヲ完クセシムルコト能ハス之ニ反シ二十年ノ歳月ヲ經過スルトキハ人ノ記憶モ消失シ隨テ顧客ノ信用モ亦昔日ノ如クナラサルヘシト云フニ在リ次ニ舊商法ニ於テハ總令

當事者カ其年數又ハ地域ニ付キ特約ヲ結ビ之ヲ長大ニセントスルモ法律上何等ノ效力ナシ即チ其年數ハ常ニ二十年ニ短縮セラレ地域ハ一地域ニ限定セラレ尤モ法律ノ規定ヨリ短キ期間例ヘハ五年若クハ三年ヲ約シ又ハ一地域ヨリモ狭キ場所例ヘハ本郷區又ハ芝區乃至何區何通ト云フカ如キ特約ハ固ヨリ有效ナリト雖モ例ヘハ十五年間ヲ約シ一府縣内ト云フカ如キ特約ハ之ヲ爲スコトヲ得ス是レ甚タ實際ニ適セサル制限ナルヲ以テ新商法ニ於テハ第二十二條第二項ニ於テ

讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

ト規定セリ故ニ當事者ハ同府縣内ニ於テ同一營業ヲ爲ササルコトヲ特約スルコトヲ得ヘク又年限ニ付テモ三十年以内ヲ約スルコトヲ得ヘシ此等ノ點ハ舊商法ニ比シテ大ニ寛大ナリ

第八 商號ノ廢止變更ニ關シ新商法ハ舊商法ニ見サル規定ヲ置ケリ即チ舊商法ハ單ニ第二十五條第二項ニ於テ登記ヲ受ケタル商號ノ變更又ハ廢止ハ速ニ

其登記ヲ受テ可シトスル規定シ地ニ何等ノ規定ナシ然レドモ是レ甚タ不十分ナルカ故ニ新商法ハ第二十四條第一項ニ於テ「（一） 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得」ト規定シ「（二） 商號ノ登記ノ抹消ハ其廢止ノ後ニ於テ之ヲ爲スルコトヲ得」ト規定セリ蓋シ商號ノ所有者ハ其變更廢止ヲ自ら登記セサルコト多カルヘシ是レ他ナシ商號ニ多少ノ變更ヲ生スルモ多クノ場合ニ於テハ其登記ヲ改ムルノ必要ヲ感セス又廢止ノ場合ニ於テハ之ヲ使用セサルカ故ニ登記ノ存否ハ自己ニ何等ノ利害ナケレハナリ然レトモ其商號ノ登記ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ハ其廢止變更ノ登記ヲ必要トスルカ故ニ此等ノ者ヲシテ登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得セシメサルヘカラス例ヘハ藤村ノ名ヲ以テ菓子營業ヲ爲サントスル者アリ而シテ當時恰モ同地域内ニ同一ノ商號ヲ以テ菓子營業ヲ爲セル者アリシカ爲メ已ムヲ得ス他ノ商號ヲ用ヒテ其營業ヲ始メタリ然ルニ其藤村ハ幾モナクシテ菓子營業ヲ廢シ隨テ其商號ヲ廢止シタリ此場合ニ於テ向ニ藤

村ノ名ヲ用ヒント欲セシ者ハ其登記ヲ抹消セシメ更ニ自己ノ商號トシテ藤村ノ名ヲ登記スルノ必要アルヲ以テ法律ハ其抹消ノ請求ヲ許シ且抹消ノ手續ニ付テハ同條第二項ニ於テ「（一） 前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラハ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

ト規定セリ是レ亦極メテ緊要ナル規定ナリトス

第六章 商業帳簿

第一 帳簿ノ種類ニ關シ舊商法ハ慣習上必要ナル帳簿ヲ備フルコトヲ要スルモノトセリ即チ第三十一條ニ於テ「各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フル責アリ云」ト規定セリ故ニ或營業ニ關シ通常甲乙丙丁四種ノ帳簿ヲ用フル慣習アル場合ニ於テ或商人カ甲乙丙三種ノ帳簿ノミヲ備ヘ丁ヲ不要ナリトシテ備ヘサルトキハ商業帳簿ノ義務ヲ怠リタルモノトシテ其制

裁ヲ受ケサルヘカラス隨テ小心ナル商人ハ強メテ多クノ帳簿ヲ備フルニ要ル
 シ日本ノ如ク商業帳簿ニ付キ從來何等ノ束縛ヲ受ケザリシ人民ニ對シ俄ニ
 此ノ如キ責任ヲ負ハシムルハ稍ヤ苛酷ナリト謂ハサルヘカラス然レトモ外國
 ニ於テハ多クハ之ヲ限定シ此ノ如ク漠然タル規定ヲ爲セル例殆トナキカ如シ
 新商法ニ於テハ其種類ヲ一定シ且努メテ之ヲ減少セリ即チ法律上必要ナル帳
 簿ハ之ヲ三種トシ各種ノ營業ニ特別ナル帳簿ハ別ニ之ヲ規定スルコトトセリ
 所謂三種ノ帳簿トハ一、日記帳、二、財産目録、三、貸借對照表是ナリ
 第二 財産目録及ヒ貸借對照表調製ノ時期ニ關シ舊商法ハ開業ノ時及ヒ爾後
 毎年初ノ三個月内ニ作製スルヲ原則トシ會社ニ付テハ開業ノ時及ヒ事業年度
 ノ終ヲ以テ其時期トセリ然ルニ毎年初ノ三個月内ニ此等ノ帳簿ヲ作製スルハ
 從來ノ慣習ニ反スルモノアリトテ商法施行ノ際非常ニ物議ヲ招キシカ東京商
 業會議所ハ此點ニ關スル修正意見ヲ提出シ帳簿ノ作製ハ毎年一回トシ且其時
 期ニ付テハ商人各自ノ便宜ニ隨ヒ一定ノ時期ヲ定メシメシコトヲ希望シタリ
 仍チ新商法ハ其希望ヲ容レ第二十六條第一項ニ於テ

動産不動産債權債務其他ノ財産ノ總目録及ヒ貸方借方ノ對照表ハ商人ノ開
 業ノ時又ハ會社ノ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作り特
 ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

ト規定セリ蓋シ日本ニ於テハ勿論外國ニ於テモ商人ハ必スシモ曆年ニ從ヒテ
 其計算ヲ爲サズ日本ノ如キハ毎年七月ヲ以テ計算ノ時期ト爲ス例尠カラス又
 政府ト關係ヲ有スル商人ノ如キハ三月ヲ以テ其時期ト爲ス者アルカ如シ故ニ
 之ヲ毎年初ノ三個月内トスルハ實際上ノ不便ヲ來スノミナラズ未タ營業年度
 ノ終ラサルニ際シ財産目録貸借對照表ヲ作製スルハ事實上甚タ困難ナリ隨テ
 商人ハ勢ヒ其營業年度ヲ變更スルカ又ハ二年度ニ跨ル計算ヲ併セテ掲載スル
 ニアラサレハ以テ其義務ヲ盡スコトヲ得ス而シテ營業年度ヲ變更スルハ商人
 ニ取リテ非常ノ不便タラハ勿論二年度ノ計算ヲ併セテ掲載スルモ亦甚タ煩雜
 ナリトス故ニ新商法ニ於テハ右ノ如ク毎年一回ト定メ而シテ其時期ハ各商人
 ノ便宜ニ任スト雖モ毎年之ヲ變更スルコトヲ許ストキハ商人ハ自己ノ利トス
 ル時ニ於テラノミ之ヲ作製シ帳簿ヲ作製セシムルノ本旨ニ背タラ以テ豫メ其時

期ヲ一定シ毎年必ス其時期ニ於テ作製スルコトヲ必要トシタリ尙ホ此時期ニ關シ舊商法ニ於テハ會社ハ原則トシテ必ス開業ノ時及ヒ毎事商年度ノ終ニ之ヲ作製スヘキモノトシ新商法ニ於テハ特ニ事業年度ノ終ニ於テナスヘキコトヲ強制セスト雖モ實際上同一ノ結果ニ歸スヘシ然レトモ小ナル會社ニ在リテハ一個年數度ノ配當ヲ爲スモノ尠シトモ是レ日本ノ如ク金融ノ圓滑ナラサル國ニ於テハ殊ニ免ルヘカラサル所ニシテ會社ノ株主ハ一年一回ノ配當ヲ以テ滿足セサルカ如シ而シテ稍ヤ盛大ナル會社ト雖モ年二回ノ配當ヲ爲スモノ寧ロ多キニ似タリ況ヤ徵收タル小會社ニ在リテハ月毎ニ配當ヲ爲スモノサヘアリ此ノ如キ會社ニ付テ舊商法ハ(每半年又ハ每半年内ニ利息又ハ配當金ヲ社員ニ分配スル會社ハ每半年ニ前條記載ノ實ヲ盡ス可シ)(舊商法第三三條)ト規定ヒリ故ニ毎月配當ヲ爲ス會社ニ在リテモ半年毎ニ一回財産目録貸借對照表ヲ作製スレハ足レリ蓋シ西洋ニ於テモ年四回ノ配當ヲ爲ス會社尠シトモサレカ如キニ其財産目録貸借對照表ハ一年二回之ヲ作製スレハ足レリトモ然レトモ利益ノ配當ハ財産目録貸借對照表ヲ作ルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ

得サルモノナリ即チ之ヲ作製シタル後ニアラサレハ果シテ利益ノ計算ヲ見ルカ損失ノ計算ヲ見ルカ未タ測ルヘカラサルカ故ニ眞ノ利益ハ財産目録貸借對照表ヲ作リテ後之ヲ知ルコトヲ得ヘシ是ヲ以テ新商法ニ於テハ第二十七條ニ年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ每配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

ト規定シタリ隨テ毎月配當ヲ爲ス會社ハ毎月此等ノ帳簿ヲ作製セサルヘカラス是レ甚タ煩勞ニ似タリト雖モ一年間ノ收支ハ其間ニ非常ノ變動ヲ見ルヘク其計算モ亦非常ノ紛雜ヲ來スニ反シ毎月ノ計算ハ其一个月内ノ收支及ヒ財産ノ増減ヲ記載スルニ過キサルカ故ニ之ヲ一年ノ計算ニ比スレハ大ニ簡便ナリトス故ニ毎月ニ之ヲ作ルハ一見煩勞ニ堪ヘサルカ如キ感アリト雖モ實際ニ於テハ一年毎ニ之ヲ作製スルニ比シ寧ロ便利ナルモノアリト信ス又假令之ヲ不便ナリトスルモ確實ナル損益ヲ知ラント欲セハ此方法ニ依ルノ外ナシ

第三 舊商法ノ帳簿ニ關スル規定ハ新商法ニ比シ大ニ嚴酷ナリト雖モ信書ノ事ニ付テハ嘗テ一言ノ之ニ及フモノナシ而シテ之ヲ西洋ノ法律ニ見ルニ信書

ノ事ヲ規定セサルモノアルコトナシ蓋シ商業上ノ信實電報ヲモ含ムル商業上極メテ大切ナルモノニシテ後日争ノ起ルニ及ヒ之カ證據ト爲ルモノ多シ故ニ西洋ニ於テハ非常ニ之ヲ貴重セリ然ルニ日本ニ於テハ西洋ノ如ク謄寫インキヲ以テ信書ヲ認メ直チニ之ヲ謄寫スルカ如キ慣習稀ニ隨テ他方ヨリノ來信ヲ保存スルハ必スシモ難事ニアラスト雖モ之ニ對スル自己ノ信書ノ謄本ヲ保存スルカ如キコト稀ナリ尤モ盛大ナル會社ニ在リテハ其信書ヲ謄寫シテ保存スルコトアリト雖モ一般ノ商人ハ此ノ如キ方法ヲ用フルコトナシ故ニ先方ノ信書ノミヲ保存セシムルモ何等ノ效ナシトシ蓋シ信書保存ノ義務ヲ命セザリシカ子ハ已ムナク先方ノ信書ノミニテモ之ヲ保存セシムルノ必要アリト信ス即チ後日争ノ起ルニ及ヒ雙方ヨリ之ヲ提出セシムルトキハ證據タルコトヲ得ヘシ新商法ハ此見解ヲ採リ營業ニ關スル信書ハ十年間之ヲ保存スルノ義務アルモノトセリ

第四 商業帳簿ノ證據力ニ關シ舊商法ハ實ニ冗漫ナル規定ヲ爲シ商業帳簿ニ關スル規定ノ過半ハ悉ク其證據力ニ關セリ即チ裁判所ニ提出スヘキ場合又ハ商業帳簿ノ證據力等證據法ニ屬スル規定ヲ羅列セシカ今ハ全ク之ヲ削除セリ蓋シ證據ノ事ハ總テ民事訴訟法ニ屬スルカ故ニ民法又ハ商法中ニ之ヲ規定スヘキニアラストモ現ニ舊商法ノ商業帳簿ニ關スル規定ハ現行民事訴訟法ト或ハ重複シ或ハ抵觸セリ而シテ民事訴訟法ハ目下修正案調査中ニ在ルヲ以テ他日民法商法ト相待チテ圓滑ニ行ハルヘキ民事訴訟法ノ制定アルヘキハ疑ナキ所ナリ且多クハ現行民事訴訟法ト其主義ヲ同シウシ證據ノ事ハ甚シク束縛セズ寛大ナル規定ヲ設クヘシト信ス

第七章 商業使用人

新商法ニ於テ商業使用人ト稱スルハ凡ソ商業上ニ於テ使用スル所ノ一切ノ人ヲ謂フ舊商法ニ於テモ之ト殆ト同一ノ意味ヲ以テ商業使用人アル名稱ヲ用ヒシカ商業使用人ノ外別ニ代務人アルモノアリ而シテ此代務人ハ必スシモ雇人ニアラス例ヘハ夫カ商業ヲ營ム場合ニ於テハ妻ヲ代務人トスルコトアリ又ハ親族ヲ代務人トスルコトアリ此等ノ者ハ固ヨリ雇人ニアラスト雖モ代務人ナ

リ商業使用人モ亦必スシモ純然タル雇傭關係ノ存スル者ノミニアラヌ歟トモ商法ノ規定ヨリ言ヘハ商業使用人ハ讀テ字ノ如ク商人カ商業ニ關シテ使用スル所ノ者ヲ廣ク商業使用人ト稱スルナリ而シテ妻其他ノ親族ヲ商業使用人トシテ使用スルハ敢テ法律ノ禁スル所ニアラスシテ等シク商業使用人ナリ其雇傭關係ノ存スルト否トニ付テハ商法ノ規定ハ何等ノ區別ヲ設ケスト雖モ唯一般ニ之ヲ言ヘハ雇人ニシテ雇人ニアラサル場合ハ所謂絕無稀有ノ場合ナリ新商法ニ於テハ此ノ如キ區別ヲ爲サス總テ商業使用人ト稱シ而シテ使用人ヲ分テテ三級ト爲シ第一ニ「支配人」第二ニ「番頭」又ハ「手代」第三ニ「其他」ノ使用人トセリ尙ホ舊商法ニ於テハ「代務人」ト商業使用人ト區別スルノ外其商業使用人中ニ種種ノ種類ヲ設ケタリ即チ舊商法第五十一條ニ於テ「何人ニテモ商業上商業主人ノ業務ヲ辨セシカ爲メニ商業使用人トシテ置カレタル者ハ特別ノ委任ヲ受ケスト雖モ通常其擔當職分ノ範圍内ニ屬ス可キ總テノ取引及ヒ行爲ヲ主人ノ爲メニ十分ノ效力ヲ以テ爲スコトヲ得使用人カ營業ノ全部若クハ一分ノ爲メニ置カレタルト否ト又ハ或種ノ取引若クハ一箇ノ取引ノ爲メニ置カレタル

ト否トヲ問ハス其取引及ヒ行爲ニ因リテ主人獨リ權利ヲ得義務ヲ負フ使用人カ主人ノ爲メニ訴訟ヲ爲シ又ハ裁判所ニ出テ或ル行爲ヲ爲スハ特別ノ委任ヲ受ケタルトキニ限ル使用人署名スルトキハ主人ノ代理タル旨ヲ書添フルコトヲ要ス」トアリ故ニ營業全部ノ爲メニ置ク使用人アリ又其一部ノ爲メニ置ク者アリ又或一種ノ取引ノ爲メニ置ク使用人アリ而シテ新商法ハ必スシモ此等ノ區別ヲ變更シタルニアラスト雖モ法律上此ノ如キ區別ハ全ク其必要ヲ認めサルカ故ニ之ヲ廢シタルノミ然リト雖モ舊商法ニ「代務人」ト稱スル者ト新商法ニ「支配人」ト稱スル者トハ必スシモ同一ナラス而シテ此「支配人」ナル名稱ハ從來久シク用ヒ來リタル名稱ナルモ舊商法ニ用ヒタル名稱ハ從來ノ慣例ニ無キ所ニシテ是レ實際ニ適セサルヲ以テ從來ノ名稱ヲ用フルノ儘レルニ如カストシ「支配人」ナル名稱ヲ用ヒ「代務人」ナル文字ヲ用ヒス又「番頭」「手代」等ノ文字ハ久シク日本ニ於テ用ヒラルル文字ナルカ故ニ等シク之ヲ認メタリ概シテ舊法典ニ於テ慣用ノ名稱ヲ用ヒサルモノ多ク殊ニ「番頭」「手代」ノ名稱ノ如キハ民法ニ於テ慣用ノ名稱ヲ認ムルニ拘ラス却テ商法ニ認メサルナリ而シテ其權限ノ點ニ付テ

ハ支配人ハ大體代務人ニ類似シ次ニ番頭手代ニ付テハ新商法ノ取ル所ノ主義ニ依レハ單ニ主人ノ代理人トシテ一定ノ業務ヲ行フヘキモノタルコトヲ認メ其他ハ各商人ノ自由ニ任セ如何ナル權限ヲ與フルモ可ナリトシ唯新商法ニ於テハ番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スルモノト規定セリ此規定アルカ爲メニ自ラ民法上ノ委任ノ場合ニ比較スレハ其權限稍ヤ廣シ即チ民法ニ於テハ原則トシテ受任者カ有スル權限ハ委任契約ヲ以テ特ニ定メタル事項ニ限ル然ルニ商法ノ規定ニ依レハ番頭手代ハ明カニ委任セサル事項ト雖モ委任シタル事項ニ關係アル事項ハ總テ之ヲ爲スコトヲ得故ニ此點ニ於テ民法上ノ委任ヨリ廣シ而シテ餘ハ民法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ他ノ使用人即チ番頭ニモアラサズ手代ニモアラザル者ハ原則トシテ此ノ如キ權限ヲ有セス單ニ勞力ヲ供スルモノニシテ法律行為ヲ主人ニ代リテ爲ス者ニアラスト看做セリ然レトモ之カ爲メニ代理ヲ禁スルニアラズ單ニ此ノ如キ權限ヲ有セザル者ト推定セルノミ故ニ主人カ特ニ一定ノ業務ヲ委任シテ代理ヲ爲サシムルコトヲ妨ケザルハ固ヨリ言フヲ埃タス是レ新商法ト舊商法

トノ異ナル所ナリ

第二 舊商法ニ於テハ商業使用人ニ關シ其雇傭關係ノ點ヲモ規定セリ而シテ其規定ハ却テ民法ノ雇傭ノ規定ヨリモ詳細ニ亘レリ若シ商業使用人ニ關シ此ノ如キ詳細ノ規定ヲ必要トセハ同シク他ノ雇人即チ僕婢ノ類ニ付テモ一樣ノ規定ヲ置カサルヘカラス單ニ商業使用人ノミニ付テ此ノ如キ詳細ノ規定ヲ必要トスル理由ナシ加之商法ノ規定ト民法ノ規定トハ全ク矛盾セル所多シ而モ其規定ヲ異ニスヘキ理由アルヲ見ス新法典ニ於テハ民法ヲ以テ舊民法ノ雇傭ノ規定ヲ補足セシト同時ニ民法ニ規定セル雇傭ノ規則ハ民事商事ニ通シテ適用セラレ商事上ノ雇傭契約タルト其以外ノ雇傭契約タルトヲ問ハス總テ民法ノ規定ニ依ルヘキモノトシタリ其詳細ハ素ヨリ民法ノ講義ニ屬スルカ故ニ此ニハ説明セズ

第三 委任ニ付テモ舊商法ニハ綿密ナル規定ヲ置キ而シテ其規定モ亦民法ノ委任ノ規定及ヒ商法ノ一般ノ代理ノ規定ト異ナレリ是レ實ニ謂レナキコトナリトス蓋シ商業使用人中支配人ハ特ニ廣キ權限ヲ有シ假令特約ヲ以テスルモ

其權限ヲ制限スルコトヲ得ス否制限ノ特約ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス又支配人ハ此ノ如キ廣キ權限ヲ有スルカ故ニ其何某ノ支配人タルコトヲ一般ニ知ラシムル爲メ之ヲ公示セサルヘカラス而シテ之ヲ公示スルトキハ商業上大ニ便利アリ故ニ支配人ニ付テハ登記ヲ爲サシメ其登記アル者ハ必ス支配人ニシテ支配人ハ必ス一定ノ權限ヲ有スルカ故ニ世々ハ安シテ之ト取引ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ之カ爲メニ登記ノ必要アリ又權限ニ關スル規定ヲ必要トスルハ固ヨリ言フヲ埃タサル所ナリト雖モ委任契約ニ關スル規定ノ如キハ毫モ之ヲ必要トセス若シ強テ此等ノ規定ヲ必要ナリトセハ當ニ商業使用人ノ場合ノミナラス他ノ場合ニ於テモ同シク必要ナリト謂ハサルヘカラス而シテ民法ノ規定ハ一般ニ必要ナルモノヲ網羅セルヲ以テ總テ之ニ依ルヘキモノトシ新民法ニハ舊商法ニ規定セル事項ト雖モ一般ニ用ヒテ可ナルモノハ之ヲ用ヒ其他ハ民法ニモ商法ニモ更ニ規定セス唯前ニ述ヘタル番頭手代ニ付テ極メテ簡單ナル規定及ヒ支配人ニ關スル右ノ如キ特別規定アルノミ尙ホ商業上ノ代理權ニ關シテハ後ノ商行為ノ編ニ於テ多少民法ト異ナレル規

定アリ此等ハ固ヨリ商業使用人ニ付テモ適用セラルルモノナリ此ノ如ク舊商法ニ於テ商業使用人ニ關シ委任ノ事及ヒ雇傭ノ事ヲ詳細ニ規定セシハ曾テ述ヘタル如ク商法ノミ單獨ニ行ハレテ不便ナカラシコトヲ期シタルニ因ルト雖モ今ハ民法ト並ヒ行ハルルコトト爲リシヲ以テ其理由消滅セリ故ニ此ノ如キ規定ヲ必要トセス

第四 新商法第三十二條ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ト殆ト異ナルコトナシト雖モ多少之ヲ増補シタルモノナリ即チ第三十二條ハ支配人カ主人ノ許諾ヲ得スシテ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行為ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ストノ規定ニシテ若シ之ニ違反シテ支配人カ自己ノ爲メニ商行為ヲ爲シタルトキハ主人ハ其商行為ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得ヘシ是レ舊商法第五十條ノ規定ト略ホ同一ナリト雖モ亦全ク差異ナット謂フコトヲ得ス即チ舊商法ニ於テハ第三者ノ爲メニ爲シタル行為ト雖モ之ヲ主人ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得タルモ是レ第三者ヲ害シ稍ヤ公平ヲ失スルヲ以テ今ハ支配人カ自己ノ爲メニ爲シタル行為ノミニ付キ

適用アルコトトセリ且舊商法ニ於テハ其權利ノ消滅スル期限ニ付キ何等ノ規定ナシ故ニ極論スルトキハ主人ハ數年前ノ取引ヲ尙ホ自己ノ取引ト看做スコトヲ得ト謂ハサルヘカラス例ヘハ三年前ニ於テ支配人カ自己ノ爲メニ商品ヲ買入レ其取引ニ因リテ大ニ利益セリ然ルニ主人ハ既ニ三年ヲ經過シタル今日ニ至リ突然其取引ヲ自己ノ取引ト爲サントフ請水シ支配人ハ之ニ應セサルヘカラストセハ其迷惑實ニ想フヘキナリ且法律行爲ハ多クノ場合ニ於テ相手方アルカ故ニ其行爲ヲ主人ノ行爲ト爲スト支配人ノ行爲ト爲ストハ單ニ支配人ノ利害ニ關スルノミナラス相手方ノ利害ニ關スルコト多シ隨テ其行爲ハ永ク不確定ノ狀態ニ在ラシムルコトヲ得ス仍テ新商法ニ於テハ之ニ期限ヲ附シ其權利ハ主人カ其行爲ヲ知リタルトキヨリ二週間又ハ其行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過スルニ因リテ消滅スルモノトセリ故ニ主人カ其行爲ヲ知リテ後二週間内ニ之ヲ自己ノ取引ト爲スコトヲ明言セザルトキ又ハ之ヲ知ラスシテ一年ヲ經過シタルトキハ後日ニ至リ其取引ヲ以テ自己ノ取引ナリト看做スコトヲ得ス尤モ此場合ニ於テハ主人ハ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ヘク又雇傭契約

約ノ上ヨリ契約違反トシテ解約スルコトヲ得ルハ言フヲ埃タスト雖モ是レ民法ノ規定ノ當然ノ結果ニ過キササルヲ以テ新商法ニハ之ヲ規定セス要スルニ右ノ期限ヲ過クレハ主人ハ支配人ノ行爲ヲ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得サルニ至ルモノナリ是レ商業使用人ニ關シテ新商法ト舊商法トノ異ナル重ナル點ナリトス

第八章 代理商

第一 舊商法ニハ代理商ナルモノナクシテ代辦人ナルモノアリ而シテ所謂代辦人ナルモノハ他人ノ代理人トシテ商行爲ヲ爲スコトヲ營業トスル者ノ總稱ナルカ故ニ代辦人ナル者ノ中ニハ新商法ニ所謂代理商及ヒ其他ノモノヲ包含セリ然ルニ西洋ノ事ハ姑ク措キ日本ニ於テハ代理商ト看做スヘキモノハ極メテ多ク彼ノ代理店ト稱スルモノノ如キモ多クハ代理商ニ外ナラス之ニ反シ單ニ商業上何人ノ依頼ニ應シテモ常ニ代理ヲ爲ス代理營業ハ現今多ク之ヲ見サルカ如シ隨テ此ノ如キ代理營業ニ關シ舊商法ノ如ク詳細ノ規定ヲ設タルノ必要ナ

ク法律ハ總テ必要ニ應シテ其規定ヲ設クルモノナルカ故ニ特ニ之カ規定ヲ置カス而シテ此等ノ事項ハ固ヨリ一般ノ規定ニ依ルコトヲ得ルモノナルカ故ニ更ニ不便ヲ感スルコトナシト雖モ之ニ反シ所謂代理商ナルモノハ現今極メテ多ク見ル所ニシテ之ニ關スル特別ノ規定ヲ設クルハ極メテ必要ナリトス是レ新商法カ代辦人ノ規定ヲ削除シ特ニ代理商ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發セサルヘカラス是レ固ヨリ必要ナル義務ナリトス何トナレハ其行爲ノ利害得失ハ直チニ本人ニ其效果ヲ及ホスモノナルカ故ニ本人ハ急速ニ其行爲ヲ知ルノ必要アルノミナラス本人ハ之ニ因リテ間接ニ代理商ヲ監督スルノ便宜ヲ得ヘケレハナリ舊商法ニ於テハ此點ノ規定ヲ缺キシカ新商法ハ特ニ此規定ヲ置ケリ即チ第三十七條ニ曰ク

代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三 新商法第三十八條ニハ支配人ニ關スル第三十二條ノ規定ト略同一ノ規

ニシテ若シ之カ行履ヲ怠リタルトキハ民法及ヒ商法ニ於ケル一般ノ原則ニ依リ之カ履行及ヒ賠償ヲ要求スルコトヲ得ヘシ

第三節 匿名組合ノ終了

匿名組合ハ左ノ事由アリタルトキハ解散スヘキモノトス

- 第一 組合契約ヲ以テ定メタル終了ノ原因發生シタルトキ
- 第二 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 第三 營業者ノ死亡又ハ禁治産
- 第四 營業者又ハ匿名組合員ノ破産
- 第五 組合契約ノ解除

(第一) 第一ノ解散事由ニ付テハ別ニ説明ヲ要セス匿名組合ハ契約ニ因リ成立スルモノナルカ故ニ組合契約ニ於テ豫メ之カ終了ノ原因ヲ定メタルトキハ各營業者ハ之ニ依リテ羈束セラレ其原因ノ發生ト共ニ組合關係ハ終了スヘキモノトス

(第二) 組合關係ハ契約ニ因リ成立シシテ種ノ事業ヲ營ムヲ以テ其目的ト爲シ此目的タル事業ヲ營ヤンカ爲メニ組合關係ハ成立セルモノナリ然レニ目的タル事業既ニ成功シ若クハ其成功ノ不能ナルコト確定シタルトキハ更ニ組合關係ヲシテ存續セシメントスル理由ナキヲ以テ終了ノ一原因トセリ

(第三) 匿名組合關係ハ信用ヲ基礎トシテ成立スルモノナリ匿名組合員ニシテ營業者ヲ信任セテラシカ何ソ其財産ヲ營業者ノ自由處分ニ放擲スルコトアラザヤ信用關係ハ對人關係ナルカ故ニ匿名組合員ハ營業者ヲ信任シテ組合契約ヲ締結セリト雖モ其信任ハ必ス相續人又ハ後見人ニ對シテモ存在スルモノナリト斷定スルコトヲ得ス是レ我商法ニ於テ營業者ノ死亡又ハ禁治産ヲ以テ組合關係終了ノ一原因トセル所以ナリ

(第四) 組合契約ノ各當事者破産シタルトキハ組合關係ハ消滅スルモノナリ匿名組合員ハ其初メ營業者ヲ信任シテ契約ヲ結ヒタリト雖モ營業者カ其財産關係ニ於テ能力ヲ失ヒタル場合ニ於テ猶ホ其信任ノ繼續ヲ推定スルハ不當ニシテ其信任關係ハ消滅シタリト考フルヲ至當トス加之破産ノ宣告アルトキハ其

財産ハ全ク破産管財人ノ管理ニ歸シ破産者ハ其財産ニ干渉スルコトヲ得サルヲ以テ相手方ノ不便尠カラス故ニ各當事者ノ破産ヲ以テ終了ノ原因トセリ

(第五) 契約ハ解除權ノ行使ニ因リ終了スルモノナルコトハ別ニ説明ヲ要セスト雖モ解除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ場合ニ付キ一言セントス契約解除ニ關シ一般ノ原因ノ外其解除權ヲ行使シ得ヘキ場合左ノ如シ

(一) 存續期間ヲ當事者ノ終身間ト定メタルトキ

(二) 存續期間ヲ定メサルトキ

(三) 已ムコトヲ得サル事由アルトキ

(四) 組合關係ノ存續期間ヲ當事者ノ終身間ト定メタルトキハ法律ニ反對ノ規定ナキ限ハ各當事者ハ其期間内契約ヲ繼續スルノ義務アリ然レトモ此ノ如キハ各當事者ノ自由ヲ拘束スルコト甚シキヲ以テ我商法ハ外國ノ立法例ニ倣ヒ各當事者ニ解除權ヲ付與セリ然レトモ其解除權ヲ行使スルニ付テハ左ノ二箇ノ制限ヲ受ケサルヘカラス

一 契約ノ解除權ハ營業年度ノ終ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

二 契約ノ解除ハ六箇月前ニ豫告スルコトヲ要ス

(二) 商法第三百一條ハ組合契約ニ於テ存續期間ヲ定メサルトキハ各當事者ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シ營業年度ノ終ニ於テ契約ヲ解除スルコトヲ得ルコトヲ規定セリ是レ商法第六十八條ト同一ノ精神ニ基因スルモノニシテ相手方ノ利益ヲ害スルコト尠カラシメンカ爲メニ二箇ノ制限ヲ附シテ解除權ヲ認メタルニ外ナラス

(三) 已ムコトヲ得サル事由ノ範圍ハ事實問題ニ屬シ箇箇ノ場合ニ就キ之ヲ決セサルヘカラス然レトモ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ存續期間ノ有無ヲ問ハス營業年度ノ終ナルト否トニ關セス且ツ六箇月前ノ豫告ヲ要セスシテ何時ニテモ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ是レ商法第三百一條ノ規定スル所ニシテ各當事者ヲシテ救フヘカラサルノ損害ヲ被ルコトナカラシメンカ爲メニ契約ノ解除權ヲ認メタルモノナリ

第五章 仲立營業

第一節 仲立營業ノ定義

仲立營業トハ商行爲ヲ行ハントスル當事者ノ中間ニ立テ其商行爲ヲ媒介スル營業ヲ謂フ而シテ諸國ニ行ハルル仲立營業ニ關スル立法例ハ之ヲ大別シテ二ト爲スコトヲ得ヘシ特許主義及ヒ自由主義是ナリ特許主義トハ仲立營業ヲ營ムニ付テハ行政官廳ノ特許ヲ受クルコトヲ必要トスルモノニシテ仲立營業ヲ營ムコトヲ許可スヘキ者ハ一定ノ資格ヲ有スルコトヲ要シ其員數ニモ亦一定ノ制限アリ之ニ反シテ自由主義トハ官廳ノ特許ヲ必要トセス何人ト雖モ自由ニ之カ營業ニ從事スルコトヲ許スモノナリ我舊商法ニ於テハ所謂特許主義ヲ採用シ年齡滿二十五歲以上ニシテ五箇年以上其部類ノ商業ニ從事シ且ツ聲聞ニ取置ナキ者ニ限リ官ノ認可ヲ受ケ仲立營業ヲ營ムコトヲ得ヘク且ツ其業務ヲ始ムル以前ニ於テ保證金ヲ差出スヘキモノトセリ我新法ハ之ニ反シテ自由主義ヲ採用シ仲立營業ヲ營ム者ハ別ニ一定ノ資格ヲ要セス又行政官廳ノ認可ヲ必要トセス何人ト雖モ自由ニ仲立人ト爲ルコトヲ許セリ

特許主義及ヒ自由主義ノ得失ニ付テハ茲ニ詳論スルノ必要ナシト雖モ特許主義ナルモノハ經濟思想ノ發達セザル時代殊ニ信用制度ノ振ハサル時ハ當リテハ最モ效力アル制度ナリトス之ニ反シテ信用制度發達シ各人其信用ヲ重スル時ニ在リテハ特ニ官許ヲ以テ仲立人ノ信用ヲ確固ナラシムルノ必要ナシ彼ノ特許主義ニ依レハ一面ニ於テ國家カ仲立人ノ信用ヲ確認スルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ仲立人ニ對シ其監督ヲ嚴ニシ公ノ信用ヲ維持スルノ方法ヲ講セザルヘカラス此ノ如キハ營業ノ自由ニ干渉スルモノニシテ國家ハ特別ノ必要ナキ場合ニ於テ營業ノ自由ニ干渉スヘキモノニ非ス換言スレバ經濟思想ノ進歩ナル今日ノ社會ニ於テ特許主義ヲ採用シ干渉ヲ試ミントスルハ皆ニ其必要ナキノミナラス却テ經濟社會ノ發達ヲ阻害スルモノナリ我新商法ニ於テ自由主義ヲ採用シタルハ蓋シ其當ヲ得タルモノト謂フヘシ

仲立營業ヲ營ム者ヲ仲立人トス仲立人ノ定義ニ付テハ商法ハ第三百五條ニ於テ之ヲ規定シ仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ナリトセリ此定義ニ付キ特ニ注意ヲ要スヘキハ

第一 仲立人ハ他人間ノ商行爲ヲ媒介スル者ナリ

仲立人ハ媒介スヘキ商行爲ノ當事者ト爲ルモノニ非スシテ單ニ其商行爲ヲ爲ス者ノ中間ニ介入シテ商取引ヲシテ容易ナラシムルノミ故ニ曰ク仲立人ハ他人間ノ商行爲ヲ媒介スル者ナリト

第二 仲立人ハ他人間ノ商行爲ヲ媒介スル者ナリ

仲立人ハ自己ノ計算ヲ以テ媒介スヘキ商取引ノ當事者ト爲ルモノニ非ス又媒介スヘキ商行爲ノ當事者ヲ代表スルモノニ非ス換言スレバ仲立人ハ其商行爲ニ依リ自ラ權利ヲ取得シ義務ヲ負擔スルモノニ非ス其商行爲ニ依リ權利ヲ得義務ヲ負フ者ハ仲立人以外ニ存セザルヘカラス仲立人ハ此等當事者ノ中間ニ在リテ商行爲ノ成立ヲ容易ナラシムルノミ

第二節 仲立營業ノ效力

前節ニ述ヘタルカ如ク仲立人ハ營業トシテ他人間ノ商行爲ヲ媒介スル者ナリ我商法ニ於テ特ニ仲立人ノ權利及ヒ義務トシテ規定シタル事項ノ概要ヲ順次

説明セシ

第一 仲立人ノ義務

(一) 見本保管ノ義務

仲立人カ其媒介スル行為ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行為カ完了スルマ
テ之ヲ保管セサルヘカラス蓋シ仲立人ハ商行爲ヲ媒介スル者ナルカ故ニ媒介
スヘキ商行爲ノ當事者ニ對シ各種ノ便宜ヲ與ヘサルヘカラス而シテ後日引渡
ノ時ニ當リ其物品ノ適否ニ付キ當事者間ニ生シ得ヘキ爭議ヲ決定スルノ用ニ
供シ無益ノ爭議ヲ止メ取引ヲシテ迅速且ツ正確ナラシメンカ爲メニ仲立人ハ
其行為完了ノ日マテ見本ヲ保管セサルヘカラスト規定セリ第三〇七條

(二) 書面ノ作成及ヒ交付ノ義務

仲立人ノ媒介シタル商行爲成立シタルトキハ仲立人ハ左ノ事項ヲ記載シタル
書面ヲ作成セサルヘカラス

一 各當事者ノ氏名又ハ商號

二 行為ノ年月日

失フ

(4) 債務者ニ對シ債權ヲ取消シタル債權者即チ他ノ債權者カ債務者ノ財産ニ
對シ支拂猶豫期間中強制執行ヲ爲スニ至リタルトキハ其猶豫契約ハ效力ヲ失
フ蓋シ尙ホ效力アルモノトセハ強制執行後財産ノ減損ヲ來シ支拂猶豫契約ノ
履行不能ト爲リ之カ契約ノ當事者タル債權者ヲ害スルヲ以テナリ第一〇六四
條

支拂猶豫契約カ或ハ無効タリ或ハ效力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ破産手續ヲ
開始セサルヘカラス何トナレハ債務者ニ對シテハ破産宣告ノ要件存スレハナ
リ第一〇五九條第九七八條此場合ニ於テハ支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支拂停
止ノ日ト定メ以テ支拂停止ノ日時ニ關スル紛争ヲ防止ス

猶豫期間中有效ニ債權ヲ取得シタル者ハ破産債權者トシテ配當ニ加入スルコ
トヲ得ルヤ言フ埃タス(第一〇六四條)

破産法終

附錄 破產法之沿革

破產法目次

緒言	一
第一編 總論	一八
第一章 破產ノ沿革及ヒ法源	一八
第二章 破產ノ性質及ヒ破產法ノ性質	一九
第三章 破產法ト他ノ諸法律トノ關係	二八
第二編 實體的破產法規	三二
第一章 破產當事者	三二
第一節 破產債權者	三三
第二節 破產債務者	四九
第二章 破產債權	六三
第一節 破產債權ノ意義	六三
第二節 破產債權ノ體裁	六七

破產法目次

第三節 破産債權ノ主張ノ範圍……………三七三

第四節 破産債權ノ順位……………九六

第五節 破産債權ノ確定……………九八

第三章 破産財團……………九九

第一節 破産財團ノ意義……………九九

第二節 破産財團ト破産當事者トノ關係……………一一五

第三節 破産財團ノ減少及ヒ増加……………一一八

第四節 破産財團ノ管理及ヒ換價……………一六七

第五節 破産財團ノ消滅……………一一〇

第四章 破産宣告ノ效力……………一一一

第一節 將來ニ關スル破産宣告ノ效力……………一二四

第二節 既往ニ關スル破産宣告ノ效力……………二九六

第三節 破産宣告ノ涉外的效力……………三五四

第三編 形式的破産法規……………三七〇

第一章 破産機關

第一節 破産裁判所……………三七二

第二節 破産主任官……………三八六

第三節 破産管財人……………三九二

第四節 檢事……………四二七

第五節 債權者集會……………四二九

第二章 破産手續ノ進行

第一節 破産ノ開始手續……………四四五

第一款 破産宣告ノ要件……………四六一

第二款 破産宣告ノ前手續……………四八六

第三款 破産ノ宣告並ニ申立ノ却下及ヒ之ニ伴フ
諸手續……………四九三

第二節 破産債權及ヒ破産財團ノ確定手續……………五〇七

第一款 届出手續……………五一〇

第二款 調査手續……………五一九

第三款 狹義ノ確定手續……………五四二

第三節 破産手續ノ終局……………五六六

第一款 破産手續ノ停止……………五七八

第二款 協諾契約……………五七八

第三款 配當……………六四九

第四編 破産法ノ效果……………六六四

第一章 人ニ關スル效果當事者ノ國籍ニ關スル問題……………六六四

第二章 所ニ關スル效果(法規ノ適用ニ關スル問題)……………六六六

第三章 時ニ關スル效果(法規ノ經過ニ關スル問題)……………六六八

附言……………六六九

破産法目次終

第一章 破産罰則……………六六九

第二章 支拂猶豫……………六八三

所得稅ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

- 第一種 千分ノ二十五
- 第二種 千分ノ二十
- 第三種
 - 三百圓以上五百圓未滿 千分ノ十
 - 五百圓以上千圓未滿 千分ノ十二
 - 千圓以上二千圓未滿 千分ノ十五
 - 二千圓以上三千圓未滿 千分ノ十七
 - 三千圓以上五千圓未滿 千分ノ二十
 - 五千圓以上一萬圓未滿 千分ノ二十五
 - 一萬圓以上一萬五千圓未滿 千分ノ三十
 - 一萬五千圓以上二萬圓未滿 千分ノ三十五
 - 二萬圓以上三萬圓未滿 千分ノ四十
 - 三萬圓以上五萬圓未滿 千分ノ四十五

現行租稅法論 各種ノ租稅 所得稅 現行所得稅

五萬圓以上十萬圓未満

千分ノ五十五

十萬圓以上

千分ノ五十五

即チ第一種及ヒ第二種ノ所得ニ付テハ比例ヲ以テ所得稅ヲ課シ第三種ノ所得ニ付テハ限定的累進ヲ以テ所得稅ヲ徵セントスルモノナリ蓋シ法人ノ所得ナルモノハ箇人ヲ離レタル別箇無形人ノ所得ナリト謂フト雖モ其所得ハ結局法人ヲ組織スル各箇人ニ歸スヘキモノナリ而シテ法人ヲ組織スル各箇人ノ側面ヨリ觀察スルトキハ法人ノ所得ノ大小ハ必スシモ其箇人ノ所得ノ大小ヲ成スモノニアラス何トナレハ法人ノ所得ハ其事業ノ盛衰ニ依リテ不同ナルヘキハ勿論ナリト雖モ而モ又其資本ノ多少ニ依リテ相異ナルヘキハ當然ナルヲ以テ多數ノ社員又ハ株主ヲ有シ資本多大ナル會社カ比較的多大ノ所得ヲ得ルモ之ヲ其社員又ハ株主ニ配當スルトキハ其配當額タル他ノ小會社ニシテ比較的寡少ノ所得ヲ得タルモノノ配當額ニ及ハサルコト鮮シトセス故ニ法人ノ所得ニ付キ資本ノ多少ヲ度外視シテ累進稅ヲ課スルトキハ甚シキ不公平ヲ生スヘシ故ニ法律ハ所得ノ多少ニ拘ラス總テ單一ノ比例稅率ヲ以テ其所得稅ヲ徵收ス

ヘキモノト爲シタリ又第二種ノ所得即チ公債社債ノ利子ニ付テハ後ニモ述フヘキカ如ク利子支拂ノ時其所得稅ヲ差引徵收スルカ故ニ徵收者ハ之ヲ納ムル者ノ總所得額ノ若干ナルヘキカヲ知ルコト能ハサルモノナリ故ニ勢ヒ其拂渡スヘキ利子額ニ比例シテ所得稅ヲ徵收スルノ制ト爲ササルヲ得ス第三種ノ所得ニ至リテハ以上ノ二者ト異ナリ所得ノ大小ハ直チニ其人ノ生活ノ裕否ト關係シ而モ其總額ハ之ヲ概算スルコト敢テ難カラサルモノナリ而シテ大所得者ハ小所得者ニ比スレハ同率ノ租稅ヲ負擔スルニ於テ比較的苦痛ヲ感スルコト少キハ爭フヘカラサル事實ナルカ故ニ所得ノ多少ニ從ヒ多少其稅率ヲ累進スルハ相當ノ事ト爲ス然レトモ累進稅ノ危險ハ累進ヲ極度ニ達セシムルニ在リ故ニ累進主義ノ租稅制度ヲ設ケタル場合ニ於テハ常ニ比例ノ累進例ハ所得一萬圓ヲ増ス毎ニ稅率二十圓ヲ加フト言フカ如キ方法ヲ取ルカ又ハ累進率ヲ或程度ニ於テ限定スルコトト爲ササルヘカラス所得稅法ハ後者ノ方法ニ出テ千分ノ十ヨリ千分ノ五十五マテノ範圍内ニ於テ稅率ヲ累進スルコトト爲シタリ予ハ所得稅ニ在リテハ累進主義ニ依ルヲ以テ負擔者ノ苦痛ヲ平均スルト同時ニ

徵稅ノ目的ヲ達スルニ適スト信スル者ナリ

所得稅法第三條第一項ハ第三種ノ所得ニ付キ一定ノ稅率ヲ定ムト雖モ箇人ノ所得ハ常ニ此稅率ニ依リテ所得稅ヲ課セラルルモノニアラス左ノ場合ニ於テハ所得稅ハ各自ノ所得金額ニ依ル稅率ニ從ヒテ之ヲ納ムヘキモノニアラスシテ其合算シタル所得總額ニ依ル稅率ニ從ヒテ之ヲ納メサルヘカラス

(イ) 戶主ト家族ト同居スルトキ 例ヘハ戶主ノ所得千圓ニシテ配偶者ノ所得七百圓ナル場合ニ於テハ戶主ハ千圓ニ付キ千分ノ十五配偶者ハ七百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキニアラスシテ戶主ハ千圓ニ付キ千圓ト七百圓トノ合算額千七百圓ニ對スル稅率即チ千分ノ十七配偶者ハ七百圓ニ付キ千圓ト七百圓トノ合算額千七百圓ニ對スル稅率即チ千分ノ十七ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキモノトス

(ロ) 同一戶主ニ屬スル家族ニシテ戶主ト別居シ二人以上同居スルトキ 例ヘハ戶主ノ直系卑屬ニシテ其妻子ト共ニ他ニ寄留スルカ如キ場合ニ於テ妻子各所得ヲ有スルトキハ其所得稅ハ各自ノ所得額ヲ合算シタル總額ニ對スル稅率ニ

從ヒテ之ヲ納メサルヘカラス

合算額ニ依リ所得稅率ヲ定ムヘキ場合ニ於テ三箇ノ問題ノ解決セサルヘカラスルモノアリ第一ハ同居者ノ一人ノ所得金額ニ付キ他ノ一人ヨリ審査ヲ請求シ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シ若クハ減損更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ例ヘハ兄ノ所得金額決定ヲ不當トシ弟ヨリ審査ヲ請求シ又ハ弟ノ所得金額四分ノ一以上減損シタル場合ニ於テ兄ヨリ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ第二ハ審査決定訴願裁決又ハ行政訴訟判決ニ依リ若クハ所得金額ノ更訂ニ依リ同居者ノ一人ノ所得金額ニ付キ異動アリタルトキハ他ノ同居者ノ稅率ニ影響スルモノナルヤ例ヘハ夫ノ所得千圓妻ノ所得三百圓ト決定セラレタル場合ニ於テハ夫妻共ニ千分ノ十五ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納メサルヘカラス然ルニ夫ハ其決定ヲ不當トシ審査ヲ求メ審査ノ結果五百圓ト決定セラレタルトキハ夫ハ五百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキハ勿論ナリト雖モ何等ノ異議ヲ述ヘサリシ妻モ亦其三百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納メテ可ナルヤ又例ヘハ夫ノ所得千圓妻ノ所得三百圓ナル場合ニ於テ夫

ハ其所得ノ半額ヲ減損シタル爲メ所得金額ノ更訂ヲ求メ五百圓ト更訂セラレタルトキハ妻モ亦其所得三百圓ニ付キ千分ノ十二ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキモノト爲ルヤ第三ハ所得金額決定ノ際ハ同居シタル者決定後別居スルトキハ孰レノ稅率ニ依リテ課稅セラレハキヤ例ヘハ同居ノ父子ニシテ父ノ所得四百圓子ノ所得三百圓ト決定セラレタル後父子別居スルニ至リタルトキハ各自ハ千分ノ十二ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキヤ將タ千分ノ十ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキヤノ三問題是ナリ

第一ノ問題ニ對シテハ予ハ之ヲ否定セサルヲ得ス同居者ノ一人ハ他ノ一人ノ所得金額ノ多少ニ依リ其納稅額ニ影響ヲ受クルカ故ニ其者ノ所得金額ニ付テハ利害ノ關係アル者ナルニハ相違ナシト雖モ所得稅法第三十六條及ヒ第四十條ハ明カニ納稅義務者ノミ審查又ハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルコトヲ規定スルヲ以テ納稅義務者ニアラサル者ハ利害ノ關係ヲ有スルコト同居者ノ如キ者ト雖モ所得金額ニ付キ審查又ハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス第三十九條ニ至リテハ單ニ所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ト規定

シ一見所得金額ノ決定ニ對シ利害關係アル者ニシテ不服アルトキハ何人ニテモ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルカ如シト雖モ予ハ若ク信セサルナリ凡ソ不當又ハ違法ノ行政處分ニ對シ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルハ之ニ依リテ其處分ノ取消ヲ求メ更ニ適當ナル處分ヲ受ケントスルカ爲メナリ故ニ法律ニ於テ特ニ定メサルモ之ヲ提起スルコトヲ得ル者ハ當ニ其處分ヲ受ケタル者ナラサルヘカヲサルハ論ヲ俟タス故ニ所得稅法第三十九條モ亦所得金額ノ決定處分ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得ルノ意ニ解セザルヘカラス若シ否ラスシテ利害關係アル者ハ何人ト雖モ訴訟又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得ルモノトセハ納稅義務者ハ決定金額ニ付キ満足スルノミナラス却テ之ニ依テ一種ノ公權ヲ行フ資格ヲ得タルカ如キ場合ニ於テ他ノ提起シタル訴訟又ハ行政訴訟ノ爲メ其資格ヲ喪失スルコトト爲ルニ至ルヘシ此ノ如キハ人權保護ノ法文ヲ解シテ人權蹂躪ノ法文ト爲スモノニシテ解釋ノ當ヲ得タルモノト爲スコト能ハス

第二ノ問題ニ對シテハ予ハ之ヲ肯定スルニ躊躇セス所得稅法第三條第二項ハ

「戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム」下規定シ同居者ノ所得稅率ハ常ニ其所得ノ合算額ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ審査決定、訴訟裁決又ハ行政訴訟判決若クハ所得金額ノ更訂ニ依リ同居者ノ一人ノ所得金額ニ異動ヲ生スルトキハ同居者所得ノ合算額ハ必ス其影響ヲ受ケテ異動スルヲ以テ他ノ同居者ノ所得ニ付キ適用スヘキ稅率ハ自ラ變更セサルヲ得ス此ノ如キハ決定裁決判決又ハ更訂處分カ其效力ヲ第三者ニ及ホスニアラスシテ法律ノ規定自ラ然ラシムルモノナリト謂ハサルヘカラス

第三ノ問題ニ對シテハ予ハ所得金額決定當時ノ稅率即チ合算額ニ依ル稅率ニ從ヒ其年ノ所得稅ヲ納メサルヘカラサルモノナリト信ス所得稅法第三條第二項ハ同居者ノ所得稅ハ其所得ノ合算額ニ依ル稅率ニ依リテ之ヲ納ムヘキコトヲ規定スルヲ以テ同一ノ家ニ屬スル者ニシテ同居スルトキハ常ニ該條文ノ適用ヲ受ケサルヘカラス而シテ若シ所得稅法ニシテ其第三條第二項ノ適用ヲ受ケタル者カ爾後別居シタル場合ニ於テハ其稅率ニ異動ヲ生スヘキモノトスルノ

意アルモノトセハ此點ニ關シ何等カノ規定ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ一年中ノ或期間ハ同居シ或期間ハ別居スル者ハ之ヲ同居者トシテ取扱フノ不穩當ナルト同時ニ之ヲ別居者トシテ取扱フモ亦事實ニ反スルヲ以テナリ然ルニ法律ハ此點ニ付テ何等ノ規定ヲ爲サス故ニ解釋上ハ法律ノ意ハ所得金額決定ノ際同居スルトキハ必ス第三條第二項ヲ適用スルモノニシテ其前後ニ於テ別居スルコトアルモ第三條第二項ノ適用上ニ於テハ之ヲ顧サルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス此事タル法文ノ解釋トシテ此ノ如ク斷定セサルヘカラサルノミナラス所得稅法施行規則第三十三條ハ明カニ此意ヲ規定シタルヲ以テ執行上ハ何等ノ疑アルモノニアラス

第三問ヲ解決スルノ機會ニ於テ併セテ別居者ノ所得三百圓以下ナル場合ニ於テ其者ハ仍ホ納稅義務ヲ有スルヤ否ヤノ問題ヲ解決スルハ全ク無益ニアラサルヘシ例ヘハ同居ノ父子ニシテ父ノ所謂四百圓ノ所得二百圓ナル者別居シタルトキハ父ハ四百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキコトハ既に述フル所ノ如シト雖モ子ハ二百圓ニ付キ仍ホ納稅義務ヲ有スルヤ否ヤ

予ハ此點ニ付テモ稅率ニ付テ論シタルト同一ノ理由ヲ以テ予ハ二百圓ニ付キ
千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムルノ義務アルモノナリト信ス即チ所得
稅法第六條ノ但書ハ第三條第二項ト關聯シテ規定セラレタルモノナルカ故ニ
第三條第二項ニシテ所得金額決定ノ際ニ於テ其適用ヲ見ルヘキモノトセハ第
六條但書ノ規定モ亦所得金額決定ノ際ニ於テ適用セラレヘキモノト爲シ決定
ノ際現ニ同居シ其所得合算額三百圓以上ナルカ爲メ納稅義務者ト爲リタル者
ハ其前後ニ於テ別居スルコトアルモ納稅義務者ニハ何等ノ影響ヲ及ホスモノ
ニアラスト爲スラ當然ナリトス

第五款 税金徴收

第一 徴收方法

所得稅ノ徴收方法ハ所得ノ種類ニ依リ同一ナラス
第一種ノ所得ニ付テハ所得稅法ハ何等ノ規定ヲ爲サザリシヲ以テ一ニ國稅徴
收法ノ規定ニ依リ其所得稅ヲ徴收スヘキモノトス

第二種ノ所得ニ付テハ公債、社債ノ利子ヲ支拂フ者利子中ヨリ所得稅額ニ相當
スル金額ヲ控除シテ其所得稅ヲ徴收スヘキモノナリ所得稅法第四二條第二項
所得稅法施行規則第三四條此場合ニ於テハ法律勅令ニ於テ特ニ徴收方法ヲ定
ムルカ故ニ國稅徴收法ハ全ク其適用ナキモノトス

公債社債ノ利子ヲ支拂フ者即チ公共團體又ハ會社ニ於テ所得稅ヲ徴收シタル
トキ其地方債又ハ社債ノ利子ニ係ルモノハ拂込書及ヒ計算書ヲ添ヘ之ヲ公共
團體ノ事務所又ハ會社ノ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘク所得稅法第三六條第
一項明治三十二年大藏省令第一七號其國債ノ利子ニ係ルモノハ翌月末日マテ
ニ取經メ所得稅徴收明細書ト共ニ其金額ヲ大藏大臣ニ報告シ大藏大臣ヨリ納
入ノ令達アリタルトキハ拂込書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ニ拂込ムヘキモノトス(所
得稅法施行規則第三六條第二項明治三十二年大藏省達第七一六號)

上述ノ如ク納稅義務者ハ利子ノ支拂ヲ受クルトキ第二種ノ所得稅ヲ納ムルモ
ノナルカ故ニ之ヲ徴收シタル者カ金庫ニ拂込ヲ爲スハ税金ノ納付ヲ爲スニア
ラスシテ其保管ニ係ル官金ノ拂込ヲ爲スモノナリ故ニ其拂込ヲ怠ルコトアル

モ之ニ對シテ滯納處分ヲ執行スルコト能ハス然レトモ公債社債ノ利子支拂者ハ其徵收シタル所得稅金ヲ金庫ニ拂込マサルヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ怠ルトキハ民事裁判所ノ判決ヲ得テ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論公債社債ノ利子支拂者ニシテ利子支拂ノ際所得稅ヲ徵收セサルトキハ法律ノ命シタル義務ヲ盡ササルモノナルヲ以テ政府ハ之ニ對シテ損害賠償ノ要求ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第三種ノ所得ニ付テハ第一種ノ所得ト同シク其徵收方法ニ關シ法律ハ亦何等ノ規定ヲ設ケス故ニ之ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用スヘキモノトス唯第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘキモノナルカ故ニ明治三十年勅令第一九五號此點ニ於テ第一種ノ所得稅ト異ナルヲルノミ

第二 徵收時期

所得稅ノ徵收時期モ亦所得ノ種類ニ依リテ同シカラス

第一種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其所得ヲ決定シタル都度之ヲ徵收ス(所得稅法第四二條第一項)法人ノ所得ハ所得稅法第七條第九條所得稅法施行規則第三條第

三十一條ニ依リ各事業年度毎ニ其決算額ニ依リテ決定スルモノニシテ所得金額ノ決定アリタルトキハ直チニ相當ノ手續ニ依リテ其所得稅ヲ徵收スヘキモノナリ

第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其金額支拂ノ都度之ヲ徵收スヘキモノトス所得稅法第四二條第二項所得稅法施行規則第三四條

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ年額ヲ二分シ其年九月及ヒ翌年三月ノ二期ニ於テ徵收スヘキモノナリ(所得稅法第四二條第三項)但シ此原則ニ對シテハ左ノ二例外アルモノトス

一 納稅義務者ニシテ所得稅法施行地ニ納稅管理人ヲ置カスシテ外國ニ住所若クハ居所ヲ移ストキハ納期ニ拘ラス直チニ其所得稅ヲ徵收スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法施行規則第四二條第三項)但シ帝國國權ノ及ハサル所ニ移住スル場合ニ於テ尙ホ納期ノ利益ヲ許與スルトキハ場合ニ依リテハ稅金徵收ヲ爲スコト能ハサルコトアルヘキヲ以テ帝國ニ於テ納稅ヲ爲スニ適スル處置ヲ定メスシテ國外ニ移住スルトキハ其移住ノ際ニ於テ稅金ノ徵收ヲ爲シ

以テ國庫ノ缺損ヲ豫防シタルナリ然レトモ所得稅法第四十二條第三項但書ハ納期ノ利益ヲ奪フコトヲ定メタルモノニシテ失權ニ關スル規定ナルカ故ニ之カ解釋ハ嚴正ナラサルヘカラス隨テ左ノ場合ニ於テハ其適用ナキモノトス

(イ) 帝國內所得稅法ヲ施行セサル地ニ移住スルトキ 何トナレハ法律カ帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキト言フヲ以テナリ

(ロ) 當初ヨリ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅管理人ヲ定メサルトキ 何トナレハ法律ハ住所若クハ居所ヲ移ストキト規定シ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有シタル者カ之ヲ移ストキニ限リ該條文ヲ適用スヘキモノト爲シタルヲ以テナリ故ニ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者ニシテ所得稅法第二條ニ依リ納稅義務アル者納稅管理人ヲ定メサルモ即時徵收ヲ爲スコト能ハサルモノナリ

(ニ) 帝國內ニ住所又ハ居所ノ孰レカ其一ヲ有スルトキ 法律ハ住所若クハ居所ヲ移ストキト言フヲ以テ住所又ハ居所ヲ移ストキハ總令帝國內ニ居所又ハ住所アルモ所得稅ノ即時徵收ヲ爲スコトヲ得ルカ如シト雖モ該條ノ帝國ニ於

テ住居ノ關係ヲ絶テタル者ニノミ納期ノ利益ヲ失ハシムルノ趣旨ニ依リテ規定セラレタルモノナルカ故ニ條文ノ意ハ住所ノミヲ有スル者カ住所ヲ外國ニ移シ又ハ居所ノミ有スル者カ居所ヲ外國ニ移ストキハ所得稅ノ即時徵收ヲ爲スコトヲ得ルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス隨テ外國ニ住所ヲ移スモ帝國內ニ居所ヲ有スルカ又ハ外國ニ居所ヲ移スモ帝國內ニ住所ヲ有スルトキハ該條文ヲ適用スルコト能ハサルナリ

二 所得ノ減損ヲ理由トシ所得金額ノ更訂ヲ求メタル場合ニ於テハ政府ハ其確定ニ至ルマテ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法第四三條)蓋シ更訂ノ結果場合ニ依リテハ納稅義務消滅シ又ハ消滅ニ至ラサルモ甚シク減少スルニ至ルノ推定アルニ強テ既定ノ稅金ヲ徵收スルハ納稅者ヲ苦シムルコト甚シキヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ稅金ノ徵收ヲ猶豫シ事ノ確定ヲ待テ之レカ徵收ヲ爲スヲ穩當ト爲セタルナリ

納期ニ關スル說明ヲ終ルニ臨ミ茲ニ前期納稅後所得稅額ニ異動アリタル場合ニ於ケル稅金ノ徵收ニ付キ一言ヲ附加スルノ必要アリト認ム第三種ノ所得ニ付

キ前期納稅後審査決定訴訟判決訴訟判決又ハ所得金額更訂ニ依リ所得金額ニ變更アリ隨テ所得稅額ニ異動アリタル場合ニ於テ若シ稅額増加シタルトキハ前期徵收額ニ對スル不足額ハ直チニ之ヲ徵收スヘキハ勿論ナリト雖モ若シ稅額減少シタルトキハ前期ノ過徵額ハ之ヲ還付シ後期ニ至リ更ニ相當額ヲ徵收スヘキヤ將タ後期ニ於テハ唯不足額ノミヲ徵收スヘキヤ所得稅法施行規則第三十八條ハ後段ノ見解ヲ取り前記ニ於テ納メタル税金ニシテ改正稅額ノ金額以上ナルトキハ其超過額ヲ還付シ改正稅額ノ全額以下ナルトキハ後期ニ於テハ其不足額ノミヲ徵收スヘキモノト爲シタリ即チ所得稅ハ年額ニ依リテ納稅者ノ義務ト爲リタルモノナルカ故ニ納期前ニ納ムルモ其額ニシテ年額ニ超エザル限リハ納稅者ハ義務ナキニ納付ヲ爲シタルニアラス隨テ還付ヲ要スヘキ理アルナシ唯相當納期ニ於テ其不足額ヲ徵收スレハ可ナリト爲シタルナリ予ハ此規定ヲ以テ會計法ノ精神ニ反セスシテ能ク實際ノ便宜ニ適スルモノト爲スモノナリ

第六款 納稅地

第一種ノ所得ニ係ル所得稅ニ付テハ法律ハ別ニ納稅地ヲ定メス然レトモ特別ノ規定ナキ限リハ法人ノ本店所在地ヲ以テ納稅地ト爲スコト當然ナルヲ以テ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得稅ハ本店所在地ニ於テ之ヲ納ムヘキモノトス但シ所得稅法第二條ニ依リ納稅義務アル法人ハ納稅地ヲ定メ其地ノ稅務署ニ申告セサルヘカラス故ニ其納稅地トシテ申告シタル地ニ於テ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ(所得稅法第四條第二項所得稅法施行規則第四〇條)

第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其金額ヲ支拂フ者差引徵收ヲ爲スカ故ニ其納稅地ハ公債社債ノ利子支拂地ニ在リト謂フテ可ナリ

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス(所得稅法第四條第一項然レトモ此原則ハ左ノ場合ニ於テ例外ヲ見ルモノナリ(所得稅法第四條第一項但書第二項所得稅法施行規則第四〇條)

(イ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有スル納稅義務者カ住所又ハ居所地以外ニ於テ納稅地ヲ定メ申告シタルトキ

(ロ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅地ヲ定メ申告シタルトキ

(ハ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅地ヲ申告セサル場合ニ於テ政府ニ於テ之ヲ指定シタルトキ

納稅地所得稅務官廳ハ獨リ税金ノ徵收ノミヲ爲スニアラス所得稅ニ關スル一切ノ事務ハ總テ納稅地ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリ即チ所得ノ申告調査決定通知審査等ハ納稅地所轄稅務官廳ニ於テセサルヘカラス故ニ法律及ヒ施行命令ハ納稅地ニ關シ左ノ事項ヲ規定シ當該官廳ヲシテ所得稅ニ關スル事務ヲ處理スルニ不便ナカラシメシトシタル期シタル

一 納稅地ヲ變更スルトキハ納稅義務者ハ其旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告セサルヘカラス所得稅法施行規則第四一條此場合ニ於テ新納稅地所轄稅務署ヨリ舊納稅地所轄稅務署ニ照覆シテ本人ノ所得ニ關スル通知ヲ得ルトキハ所

得稅事務ヲ處理スルニ至大ノ便益アルヘシ

二 納稅義務者帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ其旨所轄稅務署ニ申告スルコトヲ要ス(所得稅法施行規則第四二條)

三 第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アル者納稅地所轄稅務署ノ管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其地所轄ノ稅務署ニ申告セサルヘカラス(所得稅法施行規則第三九條)此申告ニ依リ其他ノ稅務署ハ其所得ニ關シ納稅地ノ稅務署ニ通報スルノ機會ヲ有スヘシ

四 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ納稅管理人ヲ定メ納稅地所轄稅務署ニ申告スルコトヲ要ス(所得稅法第四五條)所得稅法施行規則第四三條

第七款 制裁

所得稅法ノ定ムル制裁ニ三アリ處罰失職及ヒ缺格是ナリ(所得稅法第一四條第四六條)第四七條)而シテ所得稅法ハ他ノ稅法ノ如ク刑法ノ總則中其一部ヲ適用セサルコトヲ定ムルコトナキカ故ニ其罰則ハ刑法ノ總則ト相埃テテ適用セラ

ルモノナリ

以上予ハ地租及ヒ所得稅ニ關スル説明ヲ了レリ尙ホ營業稅以下餘ス所鈔カ
ラスト雖モ既ニ學年末ニ迫リ且ツ租稅法ノ主タル部分ヲ講了シタルヲ以テ
此ニ講筵ヲ閉テント欲ス諸子幸ニ馮ヲ諒トセラレンコトヲ

現行租稅法論 終

現行租稅法論 各種ノ租稅 所得稅 現行所得稅
ルモノナリ
以上予ハ地租及ヒ所得稅ニ關スル説明ヲ了レリ尙ホ營業稅以下餘ス所鈔カ
ラスト雖モ既ニ學年末ニ迫リ且ツ租稅法ノ主タル部分ヲ講了シタルヲ以テ
此ニ講筵ヲ閉テント欲ス諸子幸ニ馮ヲ諒トセラレンコトヲ

(三十三年度講義録)

法學士 若槻禮次郎 講述

現行租稅法論

和佛法律學校發行

現行租稅法論目次

明治三十三年四月編纂

現行租稅法論目次

現行租稅法論目次

緒言

第一編 各種ノ租稅

第一章 地租

第一節 地租ノ沿革

第二節 現行地租

第一款 課稅ノ目的

第二款 課稅ノ標準

第三款 課稅ノ程度

第四款 納稅義務者

第五款 納稅期

第六款 土地ニ關スル申請申告

第七款 土地臺帳

現行租稅法論目次

一

一五

一五

四八

五二

一〇四

一九三

二〇〇

二〇三

二〇七

二二三

第八款 改良地ニ關スル特例	二二三
第九款 罰則	二四六
第二章 所得稅	二四九
第一節 所得稅	二四九
第二節 現行所得稅	二五六
第一款 納稅義務者	二五七
第二款 課稅標準	二七一
第三款 所得調査及ヒ審査機關	三二〇
第四款 課稅率	三四六
第五款 税金徴收	三五六
第六款 納稅地	三六三
第七款 制裁	三六五

現行租稅法論目次終

第八款 改良地ニ關スル特例	二二三
第九款 罰則	二四六
第二章 所得稅	二四九
第一節 所得稅	二四九
第二節 現行所得稅	二五六
第一款 納稅義務者	二五七
第二款 課稅標準	二七一
第三款 所得調査及ヒ審査機關	三二〇
第四款 課稅率	三四六
第五款 税金徴收	三五六
第六款 納稅地	三六三
第七款 制裁	三六五

現行租稅法論目次終

○生徒募集廣告

本年九月ヨリ新學期ヲ開始ス入學志望者此際其手續ヲ履マルヘシ

入學試驗 (甲種) 九月七日午前八時ヨリ

編入試驗 (二年級) 九月二十日午前八時ヨリ

授業開始 九月十一日ヨリ

○規則書入用ノ向ハ郵券二錢ヲ送ラルヘシ

明治三十四年七月 司法省指定 文部省認定 和佛法律學校

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一个年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部費圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校内生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日内務省許可

明治三十四年八月六日印刷
明治三十四年八月十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目三十八番地

編輯者 小田 幹 治郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵 五郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定

(電話番町百七十四番)